

## 特別 史跡 無量光院跡第32・42次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

特別史跡 無量光院跡第32・42次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

令和5年3月

岩手県平泉町文化財調査報告書第143集

2023  
令和5年3月

岩手県県南広域振興局  
土木部一関土木センター  
平泉町教育委員会

特別  
史跡

# 無量光院跡第32・42次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査



無量光院跡全景（東から：2018年5月15日撮影）



無量光院跡遠景（東から：2022年4月30日撮影）



42次 北区断面 1-2 (北西から)



42次 北区SD 1 断面 (北西から)

## 序

平泉町内には、特別史跡中尊寺境内・毛越寺境内附鎮守社跡・無量光院跡、史跡柳之御所・平泉遺跡群、達谷窟、金鶴山、特別名勝毛越寺庭園、名勝旧觀自在王院庭園・おくのほそ道の風景地など奥州藤原氏に関連する数多くの国指定文化財が狭い町域に分布しています。

鎌倉時代の歴史書『吾妻鏡』文治五年(1189)九月十七日条の「寺塔已下注文」に、無量光院跡は奥州藤原氏三代秀衡が宇治平等院を模して建立したことと併せ、藤原氏の政庁「平泉館」との位置関係が記されています。

無量光院跡は、大正11年に国の史跡に指定されました。昭和27年には、文化財保護委員会(現文化庁)が発掘調査を実施し、『吾妻鏡』の記載が裏付けられるとともに宇治平等院との類似性・相違点が明らかになりました。その調査成果から、昭和30年には特別史跡に指定されています。

本報告書は県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝工事に先立つ事前調査の内容を収録したものです。調査の結果、平成26年度の32次調査では現在の県道脇から近代の道路側溝を、平成30年度の42次調査では無量光院造営時の整地層を確認しています。

本書が広く活用され、埋蔵文化財保護や活用、学術研究、教育活動などに役立てられれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査・報告書作成にあたり岩手県県南広域振興局をはじめ、地域住民の方々、ご指導・ご助言をいただきました文化庁・岩手県教育委員会・平泉遺跡群調査整備指導委員会に対し深く感謝申し上げます。

令和5年3月

平泉町教育委員会

教育長 吉野新平

## 例 言

1. 本書は県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝工事に伴う発掘調査成果を収録したものである。調査は岩手県教育委員会の指導・調整を経て、岩手県県南広域振興局から委託を受けた平泉町教育委員会が実施した。

2. 調査期間及び調査面積は以下の通りである。

次数	年度	調査期間	調査面積	調査担当
32次	平成26年度	平成26年11月9日～12月12日	27m <sup>2</sup>	島原 弘征
42次	平成30年度	平成31年2月8日～3月26日	20m <sup>2</sup>	鈴木江利子・島原 弘征

3. 調査地点は岩手県西磐井郡平泉町平泉字花立地内である。

4. 発掘調査の主体は平泉町教育委員会である。

(1) 平成26年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 渕 実

平泉文化遺産センター

所 長	及 川 司		
主 任 主 査	高 橋 国 博	主任文化財調査員	菅 原 計 二
主 査	菅 原 学	主任文化財調査員	鈴 木 江 利 子
主査文化財調査員	島 原 弘 征	主 事	佐 藤 孝 紀

(2) 平成30年度

平泉町教育委員会

教 育 長 岩 渕 実

平泉文化遺産センター

所 長	及 川 司		
所 長 補 佐	高 橋 国 博	主査文化財調査員	島 原 弘 征
主任主査文化財調査員	菅 原 計 二	文化 財 調 査 員	鈴 木 博 之
主任主査文化財調査員	鈴 木 江 利 子	主 事	那 須 駿

(3) 令和4年度

平泉町教育委員会

教 育 長 吉 野 新 平

平泉文化遺産センター

館 長	高 橋 国 博		
館 長 補 佐	島 原 弘 征	主 任	鈴 木 理 世
主任主査文化財調査員	鈴 木 江 利 子	文化 貢 調 査 員	藤 田 崇 志
文化 貢 調 査 員	鈴 木 博 之	主 任	千 葉 徹
主 任	佐 々 木 成 淳	主任文化財調査員	菅 原 計 二

5. 本書については島原弘征と鈴木江利子が分担して執筆した。

6. 調査の基準点は平成15年に無量光院内に設置した基準点（平面直角座標X系に準拠）をもとに調査員が打設した。

7. 土層観察の土色は『新版標準土色帳』（小山正忠・竹原秀雄2001）によった。

8. 調査成果の一部については、平泉遺跡群調査整備指導委員会、平泉町内遺跡調査報告会等で公表している。上記と内容が異なる場合は本書を優先する。

9. 発掘調査及び室内整理にあたっては、次の方々ならびに機関からご指導とご協力を賜った（順不同・敬称略）

文化庁、岩手県教育委員会、平泉遺跡群調査整備指導委員会、（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター

10. 出土遺物及び写真・図面等の調査に関わる資料は平泉町教育委員会が保管している。

# 目 次

I 調査にいたる経過.....	1	4 出土遺物.....	11
II 位置と環境.....	1	IV 無量光院跡第42次調査の概要.....	33
1 無量光院跡の位置.....	1	1 調査目的.....	33
2 無量光院跡の現状.....	3	2 調査方法.....	33
3 調査履歴.....	3	3 調査概要.....	33
III 無量光院跡第32次調査の概要 .....	9	4 出土遺物.....	34
1 調査目的.....	9	V 工事立会調査の概要.....	44
2 調査方法.....	9	VI まとめ.....	46
3 調査概要.....	9		

# 表 目 次

第1表 無量光院跡調査履歴.....	3	第9表 羽口観察表.....	35
第2表 無量光院跡第32次調査調査区一覧 .....	10	第10表 近世陶磁器観察表.....	35
第3表 かわらけ観察表.....	24	第11表 金属製観察表.....	35
第4表 陶磁器観察表.....	24	第12表 鉄滓観察表.....	35
第5表 かわらけ観察表.....	34	第13表 磁器観察表.....	35
第6表 中国産磁器観察表.....	35	第14表 種子観察表.....	35
第7表 国産陶器観察表.....	35	第15表 石製品観察表.....	35
第8表 土壁観察表.....	35	第16表 工事立会調査履歴.....	45

# 図 版

第1図 平泉町の位置.....	1	第12図 15~17区.....	20
第2図 周辺の遺跡分布図.....	2	第13図 18~20区.....	21
第3図 無量光院跡遺構配置図.....	7	第14図 21~23区.....	22
第4図 32次調査位置図（1）.....	12	第15図 24~26区.....	23
第5図 32次調査位置図（2）.....	13	第16図 27区.....	24
第6図 32次調査位置図（3）.....	14	第17図 32次調査出土遺物.....	24
第7図 32次調査位置図（4）.....	15	第18図 42次調査北区.....	36
第8図 1・4・5区.....	16	第19図 42次調査南区.....	37
第9図 6~8区.....	17	第20図 42次調査出土遺物（1）.....	38
第10図 9~11区.....	18	第21図 42次調査出土遺物（2）.....	39
第11図 12~14区.....	19		

# 写 真 図 版

写真図版 1 1・4・5区.....	25	写真図版 7 20~23区 .....	31
写真図版 2 6~10区.....	26	写真図版 8 24~27区 .....	32
写真図版 3 8~10区.....	27	写真図版 9 42次調査北区（1） .....	40
写真図版 4 11~13区.....	28	写真図版10 42次調査北区（2） .....	41
写真図版 5 14~17区.....	29	写真図版11 42次調査南区 .....	42
写真図版 6 17~20区.....	30	写真図版12 42次調査出土遺物 .....	43

## I 調査にいたる経過

一般県道平泉停車場中尊寺線はJR東北本線平泉駅から県道三日町瀬原線との交差点までの延長約1.4kmの県道で、通称中尊寺通りと呼ばれ平泉駅から中尊寺に向かう参道として位置づけられている。現在の国道4号（かつての国道4号平泉バイパス）が開通し通過交通が移行したことに伴い、歩行者優先の道路構造への変換を目的とした道路改良事業が計画され、それに伴う形で電線共同溝整備事業が計画された。当該県道は特別史跡無量光院跡を通過していることから、地下構造の保全を担保するため特別史跡指定地内の事業予定箇所について内容確認調査を行いその成果を元に設計変更協議を行うこととなった。本線部分の調査は（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって平成24年度に行われており（26次）、護岸・池底・排水溝等が検出されている。本報告の調査は、本線から各家庭へ延びる引き込み線部分及び地上機設置予定箇所において、設計上情報が不足している箇所について内容確認調査を行うこととなり、前者は32次調査として後者は42次調査として実施したものである。

## II 位置と環境

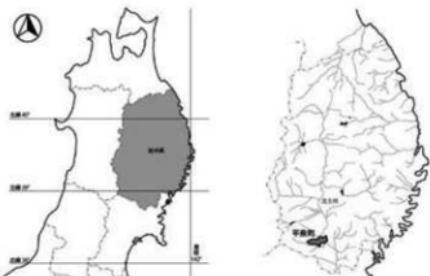
### 1 無量光院跡の位置

平泉町は、岩手県の南部に所在する人口約7,000人、面積約64平方kmの小さな町である。東側は東稲山（595.7m）、音羽山（539m）、観音山（325.2m）が連なる北上山地、西側は奥羽山脈に続く標高100～200m前後の丘陵地に囲まれ、中央部には北上川が南流し、その両側に田園地帯が広がっています。南側を一関市、北側を奥州市に接している。

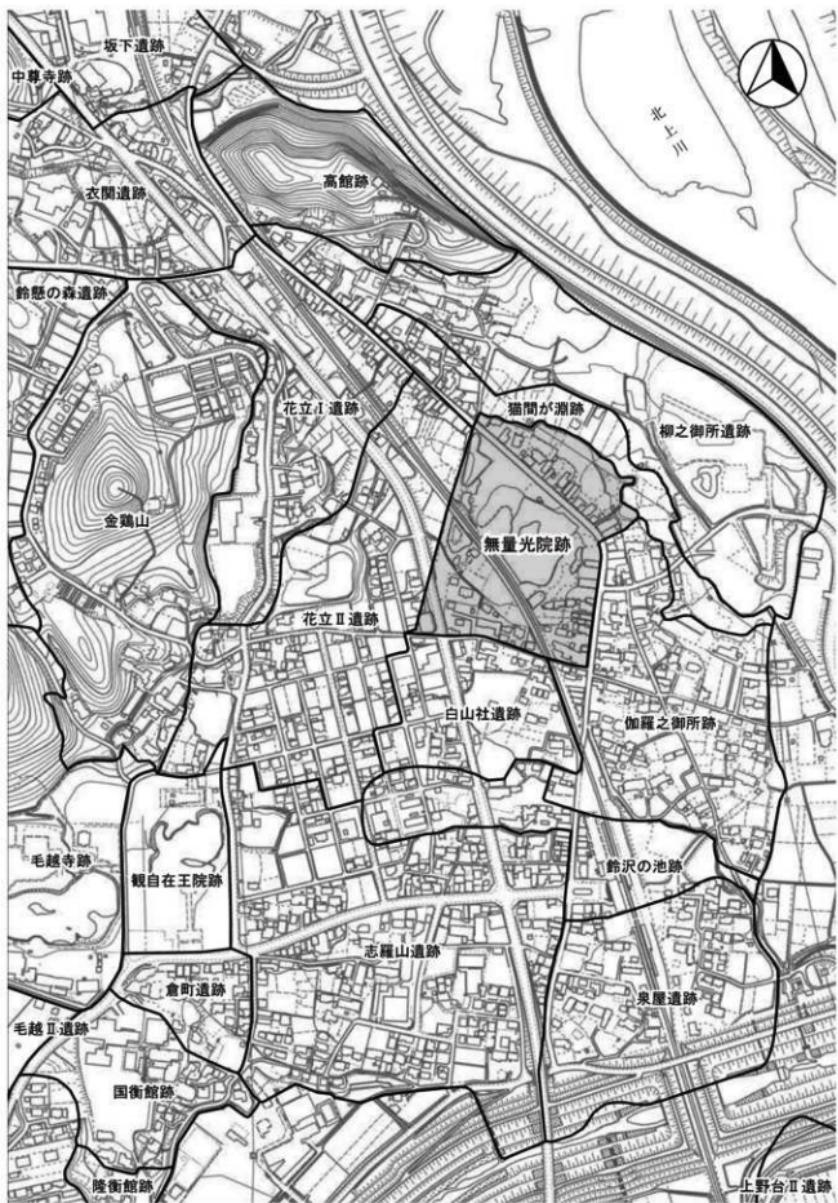
平泉は、12世紀に奥州藤原氏の拠点として栄える一方、源頼朝によって1189年に滅亡する。その繁栄と滅亡の歴史は、1689年平泉を訪れた俳人の松尾芭蕉をはじめ、多くの文人たちを惹きつけ、数多くの詩歌を喚起する素材となっている。平成23年には町内に所在する5つの史跡名勝が「平泉—淨土を表す建築庭園及び考古学的遺跡群」をして世界遺産登録された。

その構成資産の一つとなっている無量光院跡は北上川右岸の町の中心域に所在する。遺跡の中心は、JR東北本線平泉駅から北西約500m、周辺には水田や住宅があり、鉄道や県道が横断している。

遺跡の北側では猫間が淵跡を挟み奥州藤原氏の政庁「平泉館」と考えられる柳之御所遺跡が位置し、東側は『吾妻鏡』において奥州藤原氏三代秀衡の「常の居所」である加羅御所があったとされる加羅之御所跡、南側は白山社遺跡と接している。西側には花立I・II遺跡が隣接し、その西方には、金鶏山が位置している。金鶏山は無量光院跡阿弥陀堂の背面（西方）にあたり、山頂は阿弥陀堂や東島の建物の中心軸の延長線上にあたり、基準の山となっている。なお、山頂には経塚があり、昭和初期の発掘で経筒とその外容器である12世紀前半の渥美壺が出土している。



第1図 平泉町の位置



第2図 周辺の遺跡分布図

## 2 無量光院跡の現状

平泉は平安時代末の約100年間、東北地方を勢力下に置いた奥州藤原氏の拠点であり、当時の痕跡を多く残している。その一つである無量光院跡は、奥州藤原氏三代目の秀衡が建立した寺院跡である。

無量光院跡は、南側を除いた三方を土塁で囲まれ、その内側には梵字が池と呼ばれる池跡と、大中小三つの島が（中島・東島・北小島）設けられている。また、西側は土塁の外側に沿って堀が設けられており、現在でもその痕跡を見ることができる。境内の規模は、鉄道と県道によって3分割されている関係で分かりにくいが、南北約320m、東西約240mを測る。

昭和27年に文化財保護委員会（現在の文化庁）が行った発掘調査によって、中島には阿弥陀堂の跡が、東島から3棟の建物跡が確認された。建物は失われたものの、島の礎石は当時の建物の位置や規模を示し、周辺の休耕田部分は「梵字が池」と呼ばれる池の跡として平坦地を形成し、当時の面影を伝えていた。地形から推定される池の広さは東西約140mを測る。しかし、一見すると旧耕田の中に島状の高まりが大小二つ、東西に並んだ状況でしかなく、説明がないと訪問者にはわかりにくい状態であった。

無量光院の中心である中島と東島は、毛越寺の所有地である。池の跡や周辺は寺領ではなく、住宅や水田として使用されていたことから、管理団体である平泉町は鉄道と県道に挟まれた中央部分の住宅地や水田を公有化し、平成24年度からは池跡部分を中心に整備工事を開始した。平成26年度には東島及びその周辺、同27年度には中島、28年度には北小島の整備が行われ、以前に比べて東島・北小島が視認しやすくなってきており、様相は変化してきている。

## 3 調査履歴

無量光院跡はこれまで、文化財保護委員会・岩手県教育委員会・平泉町教育委員会によって今回の調査を含め48回の調査が行われてきていている。調査履歴は第1表に記したので参照願いたい。

第1表 無量光院跡調査履歴

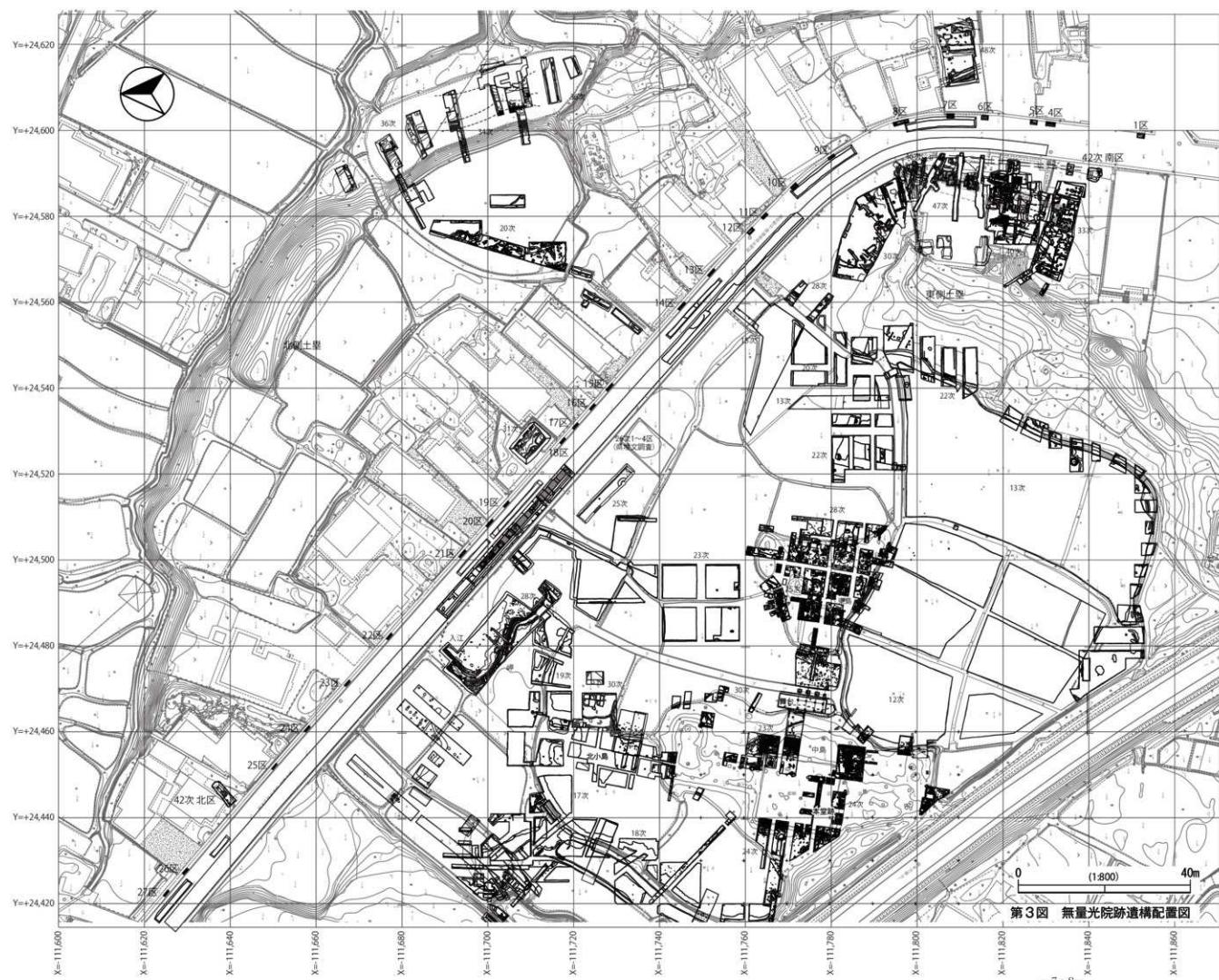
次数	主 体	原 因	史跡指定内地	期 間	面積m <sup>2</sup>	内 容
1	文化財保護委員会	内容確認	○	S270804～0903		・「吉妻鏡」により、宇治平等院を模し建立されたとの記述を裏付けた調査。 ・平等院との類似性、相違点が明確化。 ・本堂と翼廊の規模が明らかとなる。臨池式翼廊付阿弥陀堂、本堂の規模が平等院と類似。 ・本京の東側の島（東島）で3棟の礎石建物を確認。
2	岩手県教育委員会	住宅増築	○			・現状変更（建築改修）に伴うトレンチ調査。 ・東岸と地盤変動を検出。
3	平泉町教育委員会	住宅増築	○	H040924～0930	6	・園池としての正確な遺構は検出されず。 ・地山傾斜面と白色粘土質層は園池の可能性を残している。
4	平泉町教育委員会	駐車場造成	○	H061205～1226	55	・西側土塁と北土塁が繋がっていた可能性を指摘。 ・北土塁の北斜面の平場から、波板状凸凹を作り12世紀後半の道路跡を検出。 ・井戸状遺構から多數のちゅう木出土。 ・土塁部基礎の基層年代を12世紀とし3四半期後半から第4四半期前半と推定。
5	平泉町教育委員会	住宅改築		H100629～0729	190	・東側土塁坂革層の基底部と思われる整地地盤層を確認。時期は12世紀第3四半期後半。 ・窓間が西跡の張り出し地面向かう道路跡を確認。
6	平泉町教育委員会	車庫新築		H100817～0910	47	・埋跡1条、溝1条、土坑1基、柱穴58個を検出。
7	平泉町教育委員会	住宅改築		H101009～1125	300	・獨立柱建物1棟、穴列2条、特殊遺構2基、溝11条、土坑6基を検出。 ・特殊遺構とされた1基は、切妻造の溝で半円に区画された遺構。内部にこの構造に特徴があると思われる5個の柱穴が検出されており、宝龕に相当する構造と考えられている。 ・もう1基の特殊遺構は、方形周溝に囲まれ、内部に壁柱穴を伴う方形の堅牢建物である。祭壇に隣接した遺構と推定されている。
8	平泉町教育委員会	住宅新築	○	H110402～0707	610	・北側土塁に相当する部分で、種類毎を平垣化する整地跡を確認。地盤は深いところで約3mに及ぶ。 ・北側土塁北の正面の部分から、幅約15mの石敷道路遺構を検出。砾石は頭大、内は3段大。その上部を櫛縫で施ぐ工法。
9	平泉町教育委員会	擁壁建設		H110715～0831	154	・7次調査の南側隣接地。同調査で検出された堅穴建物の南半を検出し。全容が明らかとなる。 ・他に掘立柱建物1棟、溝2条、土坑1基を検出。 ・堅穴建物は約3.35×3.35mの隅丸方型、深さ約3.5mを測る。内部に2×3間の壁柱穴を確認。また、堅穴建物は約3.3×7.0mの隅丸方形状の周溝に囲まれている。周溝の規模は幅0.4m、深さ約5mを測る。

次數	主 体	原 因	史跡指定地内	期 間	面積m <sup>2</sup>	内 容
10	平泉町教育委員会	物置新築		H10901 ～1018	220	・土塁より古い溝1条と土塁2基を検出。 ・土塁の断面側面の結果、版塗状や地山粘土を積み上げた状況を確認。 ・土塁下の田畠土塁からロクロかねらけの一括廃棄溝を検出。
11	平泉町教育委員会	駐車場造成		H120605 ～0825	350	・西側土塁の基底部を確認。 ・柱穴を検出。
12	平泉町教育委員会	内容確認	○	H141102 ～150328	932	・泄路が非常に浅く、遺物包含層がないことを確認。 ・池底を平坦にするための整地層を一部確認。 ・池底から漏洩する。
13	平泉町教育委員会	内容確認	○	H150513 ～1219	2,900	・東島の東の測量。 ・表土から20cm下で地山（池底）を検出。遺物包含層は認められない。 ・ただし、北側に向かうにつれて若干浸みを増す傾向が認められ、周辺に池底の存在が予想されている。 ・中島（本堂跡）の東側（正正面）に南北方向に並列する2列の柱列（4個×2列）を検出するも、横脚に隣接するものではないと判断されている。 ・中島の北側から横脚の抜け取りと思われる柱穴を検出。 ・中島の北西側で引窓の追跡を行う。周辺では礎は検出されていない。
14	平泉町教育委員会	住宅増築		H150723 ～0731	32	・無量院跡の北側に位置する。南側土塁、堀跡の存在が予想される地域である。土壌・堆積は検出されず。
15	平泉町教育委員会	内容確認	○	H160910 ～1203	549	・13次に統一された追跡調査を行うも、池底は確認されず。 ・園地北西地盤から、竪穴建物、溝、土壌、柱穴を検出。柱穴は建物を構成する柱穴の一部と推定される。柱穴どうしの重複はない。 ・周辺に整地層を確認。西側土塁の基底部と推定される。
16	平泉町教育委員会	物置建築		H161025 ～1124	36	・12世紀後半と推定される地業解剖を確認。 ・12世紀後半の瓦、かわらけ、陶器片、羽口が出土。 ・17世紀以前の漆2条、肥前産墨鉢が出土。
17	平泉町教育委員会	内容確認	○	H170613 ～1102	270	・本堂北側翼廊の延長線上に横脚跡を検出（1×4間）。 ・横脚跡の北側に小島（仮称：北小島）を検出。平等院との類似性がさらに補足される。 ・拡大の円錐形が現れた底付近の埋土から多數出土。
18	平泉町教育委員会	内容確認	○	H180605 ～1204	800	・本堂西側から北側にかけての他の範囲が明らかになった。 ・池化粧と北小島などをつなぐように、土手状の高まりが設けられていることを確認。平等院との類似性がさらに補足された。 ・導水の溝過伏溝と推定される落ち込み遺構を検出した。 ・土壌状の高まりの下に板に埋設されていることを確認した。導水に関係する木樁の可能性も想定される。 ・池底、池岸には認められない。
19	平泉町教育委員会	内容確認	○	H190615 ～1110	700	・本堂北側の他の範囲が明らかになり、池の範囲が一部帆道北側にまで及ぶ可能性が出てきた。 ・導水の可能性が高い溝跡を確認。 ・18次調査で確認した。板の追跡を行ったが板の下部に掘り込み等の板跡は認められなかった。 ・県道際で道路側溝と思われる近世の溝跡1条を確認。奥州道中に隣接する講と思われる。
20	平泉町教育委員会	内容確認	○	H200602 ～1031	700	・泄路の北東から北側の汀取を検出し、泄路は現地形と異なり北に張り出して傾斜北側にてがるところが確認された。 ・帆道より北側では溝や柱穴などの遺構を検出した。柱穴の中には地盤以前のものもあり、無量院院以前から、何らかの土地利用されていたことが確認された。
21	平泉町教育委員会	住宅新築		H210512 ～0601	150	・周溝を作り廻穴建物1棟、溝3条、柱穴30個を検出。 ・廻穴建物は、西側が検査外のため小室は不明だが、南北3.35m、東西1.42mを測り、壁柱は2つとなっている。その廻穴建物の外周を81～86cm、深さ6～12cmで測定が行われている。この廻穴建物は7次調査のものと類似しているが、周溝が円形井戸を呈している点が異なる。 ・周溝に区切られた範囲は南北で約1.14mを測る。なお、東西方向は調査区外を含むため不明だが、確認した範囲で約4mを測る。
22	平泉町教育委員会	内容確認	○	H210615 ～1221	700	・池東側と南側の段を確認した。 ・今まで調査で東西の段を確認できたことから、無量院跡の池の大半は、東西約1.40mあることが確認された。また、池岸には石が葺かれていた様子はなく、池は浅いと思われる。 ・横の跡跡は検出できなかったが、池底から用途・性格不明の振り込みを検出した。 ・この振り込みは幅2.8～3.5m、深さ20～30cmあり、池底を整える際に埋め戻されたものと考えられるが、性格は不明である。
23	平泉町教育委員会	内容確認	○	H220621 ～1221	500	・本堂基礎周辺を走る板石及び正面に敷かれた場の広がりを確認し、再測量を行った。 ・今ままで調査で東西の段を確認できたことから、無量院跡の池の大半は、東西約1.40mあることが確認された。また、池岸には石が葺かれている様子はなく、池は浅いと思われる。 ・ただし、北翼廊の一部で検出された板石を覆う基礎造成土の検証や場の広がりの範囲確認及び基礎の石列との関係の確認などが課題として残されている。 ・中島東端から北台と考えられる段跡が検出された。
24	平泉町教育委員会	内容確認	○	H230704 ～1228	235	・本堂基礎構造をおおよそ確認することができた。また、基礎表面には川原石を潮状に積んでいた。 ・「海」の広がりは少なくとも東西方向2.7m、南北方向24m程あることを確認した。

次数	主 体	原 因	史跡指定内	期 間	面積m <sup>2</sup>	内 容
25	平泉町教育委員会	内容確認		○ H240720 ～1228	290	・昭和27年の1次調査で確認された東島に、所在する礎石建物3種の北半部を中心には複数の建物に分かれる可能性がある。また、礎石建物より旧い柱立建物を検出したが、礎石及び柱石の下に広がること及び南側調査区外に広がっていることから規模は不明である。 ・中島北側の池の岸から、岬及び入り江を確認した。 ・東島の岸は後世の削平を受けおり、現存状況が不良であること、大型の礎石の一部が埋め位置を保っていないことが確認された。
26	(公財) 岩手県文化振興事業団蔵文化センター	内容確認		○ H240601 ～1205	1,390	・電線共同溝本幹部分の内容確認調査。無量光院跡の北西端から東端にかけて細長く調査を行い、池跡とその排水路を検出し、西側土堤下に整地跡が広がることを確認した。 ・池跡北西側の海岸及び堆積土の残存状況は良好で、池北西側の様相を把握することができた。
27	平泉町教育委員会	物置建替		H250520 ～0605	41	・無量光院跡南側の史跡外の調査。12世紀の溝跡2条と跡跡1列を検出したが、無量光院本体の袖輪とはなり、無量光院跡に面接した遺構かは不明。
28	平泉町教育委員会	内容確認		○ H250617 H260314	300	・昭和27年の1次調査で確認された東島に、所在する礎石建物4種の南半部を中心に再調査を行った。特に東方建物は、複数の建物に分かれる可能性がある。 ・中島北側の池の岸から、岬及び入り江を検出し、規模・形状を確認した。
29	平泉町教育委員会	内容確認		H260317 ～0331	54	・西側土堤南側の史跡外の調査。同土堤の斜面部分を検出した。
30	平泉町教育委員会	内容確認		○ H260623 ～1226	500	・東門脇地区では、東門は検出されなかったが、表土下5mで12世紀の整地跡を検出し、無量光院造営時に大規模に造営されていたことが確認された。整地跡の下から無量光院跡造営以前と考えられる報7m、深さ1mの大溝を検出した。 ・北小島の大きさは東西15m、南北10.5m程であること、高さが少なくとも30cmあることが確認された。
31	平泉町教育委員会	物置建替		○ H260623 ～0718	51	・無量光院跡の池（字学が池）の北端部分の調査。 ・底及び薄岸の部分が検出された。薄岸のラインは調査区北側に隣接する用水路（内堀）と並行関係にあり、当時の地形が現在の境界に影響を与えている可能性を指摘。
32	平泉町教育委員会	内容確認		○ H261109 ～1212	27	・電線共同溝本幹から延びる引き込み溝部分の内容確認調査。 ・大半が近代以降の道路側溝によって12世紀の遺構面が失われていたことが確認された。
33	平泉町教育委員会	内容確認		○ H270611 ～1116	500	・中島の補足調査と東側土堤及びその東部の調査 ・中島の調査では本堂基壇が川原石に被覆されている独特の基壇意匠であることを確認した。 ・東側土堤の裏面では、無量光院跡沿縁の柱穴と戸形施廻穴を確認した。また、その下層から無量光院以前の茶地盤を検出した。
34	平泉町教育委員会	内容確認		○ H280811 ～1130	200	・無量光院跡北東端の調査 ・北東側を土塁に囲むる縦跡2条を確認。縦跡は12世紀後半以降に同一箇所で短期間に作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北隣に位置する柳之御所遺構の掘溝も、外側から内側への移行及び複数回の後溝が認められ、同遺跡縫との同属性が伺える。
35	平泉町教育委員会	住宅新築		H280523 ～0729	147	・無量光院跡南側の史跡外の調査。12世紀の東西軸の大溝跡を検出したが、無量光院跡に使うもののかは不明。
36	平泉町教育委員会	内容確認		○ H290801 ～1117	160	・無量光院跡北東端の調査。 ・北東側を土塁に囲むる縦跡2条を確認。縦跡は12世紀後半以降に同一箇所で短期間に作り替えが行われていたことを確認。無量光院跡北隣に位置する柳之御所遺構の掘溝も、外側から内側への移行及び複数回の後溝が認められ、同遺跡縫との同属性が伺える。
37	平泉町教育委員会	住宅新築		H290531 ～0801	110	・無量光院跡南側の史跡外の調査。土坑、溝、埴土遺構、柱穴を検出。無量光院跡造営時の整地層下から12世紀前半のかわらけとともに陶文土器が出土。
38	平泉町教育委員会	住宅新築		H290802 ～0824	75	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑、溝、柱穴を検出。
39	平泉町教育委員会	住宅新築		H300403 ～0507	53	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。木棒を持つ井戸状遺構1基を検出。
40	平泉町教育委員会	内容確認		○ H300709 ～1026	200	・無量光院跡東側の調査。無量光院跡以前の石敷と埴土層を検出。
41	平泉町教育委員会	盛土		H301026 ～1129	58	・無量光院跡南西端の史跡外の調査。溝跡3条を検出。うち2条の柱廻時期は12世紀。
42	平泉町教育委員会	電線共同溝		○ H310306 ～0326	20	・無量光院跡を北西～南東方向に横断する県道脇の調査。溝1条、整地層、柱穴1個を検出。
43	平泉町教育委員会	造成		H310415 ～0423	85	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。土坑1基、柱穴を検出。
44	平泉町教育委員会	住宅新築		H310409 ～R010523	90	・無量光院跡南西側の史跡外の調査。12世紀の整地層とその上面から土坑、柱穴を検出。
45	平泉町教育委員会	住宅新築		R010702 ～0807	150	・無量光院跡南東側の史跡外の調査。孤立柱建物跡、土坑、溝、柱穴を検出。
46	平泉町教育委員会	内容確認		○ R010819 ～1101	120	・無量光院跡東側の調査。40次調査の続きとなる無量光院跡以前の埴土層を検出。
47	平泉町教育委員会	内容確認		○ R021021 ～1119	75	・無量光院跡東側に位置する災害復旧工事に先立つ内容確認調査。無量光院以前の溝を確認した。この溝は無量光院跡以前の埴土層によって柱穴を検出。
48	平泉町教育委員会	住宅新築		R020531 ～0717	114	・無量光院跡北東側の調査。溝跡、柱穴、落とし穴を確認。落し穴は12世紀以前。溝跡、柱穴は12世紀と近世のものが混在している。

## 参考文献

- 文化財保護委員会1954 無量光院跡 埋蔵文化財発掘調査報告第三
- 平泉町教育委員会1993 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第34集（3次）
- 平泉町教育委員会1995 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第47集（4次）
- 平泉町教育委員会1999 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集（5～7次）
- 平泉町教育委員会2000 平泉遺跡群発掘調査略報 岩手県平泉町文化財調査報告書第73集（8～10次）
- 平泉町教育委員会2003 特別史跡無量光院跡内容確認調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第83集（12次）
- 平泉町教育委員会2004 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書I 岩手県平泉町文化財調査報告書第87集（13次）
- 平泉町教育委員会2004 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第85集（14次）
- 平泉町教育委員会2005 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書II 岩手県平泉町文化財調査報告書第91集（15次）
- 平泉町教育委員会2005 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第92集（16次）
- 平泉町教育委員会2006 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書III 岩手県平泉町文化財調査報告書第99集（17次）
- 平泉町教育委員会2008 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書IV 岩手県平泉町文化財調査報告書第107集（18次）
- 平泉町教育委員会2009 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書V 岩手県平泉町文化財調査報告書第109集（19次）
- 平泉町教育委員会2010 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書VI 岩手県平泉町文化財調査報告書第113集（20次）
- 平泉町教育委員会2011 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第116集（21次）
- 平泉町教育委員会2011 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書VII 岩手県平泉町文化財調査報告書第115集（22次）
- 平泉町教育委員会2012 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書VIII 岩手県平泉町文化財調査報告書第117集（23次）
- 平泉町教育委員会2013 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書IX 岩手県平泉町文化財調査報告書第119集（24次）
- 平泉町教育委員会2014 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書X 岩手県平泉町文化財調査報告書第121集（25次）
- 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター2015 無量光院跡第26次・花立I 遺跡第30次・花立II 遺跡第24次発掘調査報告書 岩手県文化振興事業団埋蔵文化財発掘調査報告書第631集
- 平泉町教育委員会2015 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第124集（27・29次）
- 平泉町教育委員会2015 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XI 岩手県平泉町文化財調査報告書第123集（28次）
- 平泉町教育委員会2016 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XII 岩手県平泉町文化財調査報告書第125集（30次）
- 平泉町教育委員会2017 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XIII 岩手県平泉町文化財調査報告書第127集（33次）
- 平泉町教育委員会2018 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XIV 岩手県平泉町文化財調査報告書第129集（34次）
- 平泉町教育委員会2018 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第130集（35次）
- 平泉町教育委員会2019 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XV 岩手県平泉町文化財調査報告書第131集（36次）
- 平泉町教育委員会2019 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第132集（37・38次）
- 平泉町教育委員会2020 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVI 岩手県平泉町文化財調査報告書第133集（40次）
- 平泉町教育委員会2020 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第134集（39・41次）
- 平泉町教育委員会2021 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVII 岩手県平泉町文化財調査報告書第137集（46次）
- 平泉町教育委員会2021 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第138集（43～45次）
- 平泉町教育委員会2022 特別史跡無量光院跡発掘調査報告書XVIII 岩手県平泉町文化財調査報告書第140集（47次）
- 平泉町教育委員会2023 平泉遺跡群発掘調査報告書 岩手県平泉町文化財調査報告書第144集（48次）



第3図 無量光院跡遺構配置図

### III 無量光院跡第32次調査の概要

#### 1 調査目的

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業に伴う内容確認調査である。当該事業は特別史跡無量光院跡において(公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターが平成24年度に行った(27次)。共同溝本線分を対象としたこの調査では護岸・池底・排水溝を検出し、共同溝の掘削深度の設定資料となった。今回は本線から各家庭へ延びる引き込み線部分において、遺構を損なわない形での施工とするため遺構検出面の把握を目的としている。対象は35カ所であるが、上下水道の引き込みと重っている10カ所を除く25カ所を調査した。

#### 2 調査方法

**調査範囲** 今回の調査は電線共同溝支線部分の遺構分布及び検出面標高の確認のため、当該予定地を対象に調査を行った。ただし、民地部分に関しては住宅の軒下や玄関先が調査対象となってしまうため、原因者と県教委との協議の上、民地部分は調査対象外とし、道路敷内の工事予定地のみ調査を行う事となった。そのため、調査区の大きさは幅0.3~0.6m、延長1.5~2mという規模となった。グリッドによる調査区設定は行わず、工事対象予定地を南東側から順番に1区、2区の順に番号をつけ、一日に2~3区をまとめて調査を行った。

**粗掘・検出** 遺構検出面までは重機でアスファルト及び路盤を剥ぎ、遺構や層位の確認を進め、鍛簾等で遺構検出作業を行った。

**精査** 基本的には検出に留めた。ただし、遺構の年代・層序等を確認するために、部分的にサブトレンチを入れて調査を行っている。

**記録** 住宅の玄関先及び道路敷内の調査のため、一日で粗掘り→精査→記録→埋め戻しまでの全ての作業を終わらせなければならない状況であった。そのため、作業時間の短縮のため、遺構の実測は株式会社リッケイの協力を得て写真解析による図化を行った(撮影は調査員が行い、解析・図化を株式会社リッケイが担当)。

測量基準点は無量光院跡内に設置された基準点(平面直角座標X系(測地2000))を元に行った。なお、平成20年6月14日に発生した岩手・宮城内陸地震において、調査区周辺では西北西方向に約20cm、平成23年3月11日に発生した東北太平洋沖地震によって、南南東へ約2.7mずれていることが確認された。よって、同地震以降に新規設置した基準点に関しては、変動前の数値(測地成果2000)に変換した測量成果を使用することで、既存の測量成果との整合性をつけることとした。

遺構写真は35mm版カメラとデジタルカメラ(ニコンD90)をメインカメラとして、撮影を行った。

**埋め戻し** 調査で掘削した土を埋めた。

#### 3 調査概要

調査区の大半が近代以降の道路側溝によって12世紀の遺構面が失われていた。これは、現道路側溝脇という調査位置にもよるのかもしれない。同様に池岸及び排水部分に近い調査区(14・19~21区)において無量光院跡の園池に伴う遺構が検出されることが期待されたが、近代以降の道路側溝によつて失われている状況を確認した。

ここでは遺構別に記載することとし、各調査区の属性及び出土遺物については第2表を参照願いたい。

## (1) 道路側溝

今回確認した溝は帰属時期が近代以降の道路側溝と考えられる遺構である。この側溝は31次調査において地表面から1.2~1.5m下（標高27.00~27.34m）の部分で底面近くの面を検出し、無量光院跡の遺構及び遺構検出面が失われていることが確認されていること、調査区が狭小であったことから、32次調査においては、基本的に道路側溝を検出した段階で調査を終了した。

〈位置・検出状況〉 4~11、13~18、20、23~25区

〈堆積状況〉 緑灰～明緑灰砂質土を主体とした自然堆積を呈する。

〈出土遺物〉 1区からかわらけ細片と近代以降の陶磁器（No.2・3）が出土した。

## (2) 整地層

無量光院跡付近の地形は西から東に向かって緩やかに下がる地形を呈しており、無量光院跡の北・東側では比較的造営時の整地層が確認されていた。今回の調査区では4~25区において整地層の検出が期待されていたが、近代以降の道路側溝によって調査した範囲の大半では失われ、僅かに9~11区で検出した。

〈位置・検出状況〉 9~11区で検出した。

〈堆積状況〉 にぶい黄褐色粘土を主体としており、周辺の様相に近似している。9区は検出のみ、10区は後世の影響でグライ化している。

〈出土遺物〉 10区において、かわらけ12点が出土した。このうちNo.1の手づくねかわらけを掲載した。

第2表 無量光院跡第32次調査調査区一覧

	調査区(m) 全長	検出面まで の深さ(cm)	道路面標高 (m)	検出面標高 (m)	備考
1区	1.66	1.0	77~78	26.91~26.94	26.13~26.17 道路側溝を25.90mまで調査するも底面未到達。 かわらけ1点、磁器3点、陶器1点、ガラス1点出土。
4区	2.07	0.90	93~94	27.10~27.13	26.19~26.20 磁器1点、ガラス2点、石1点出土。
5区	1.50	0.95	88	27.13~27.14	26.25~26.26 磁器1点、ガラス2点、石1点出土。
6区	1.52	0.93	106	27.29~27.30	26.23~26.24 推定地山面、磁器1点出土。
7区	1.56	0.87	82~83	27.39~27.41	26.57~26.58 道路側溝を26.46mまで調査するも底面未到達。レンガ1点出土。
8区	3.58	0.81	91	27.51~27.61	26.60~26.70 磁器・レンガ各1点出土。
9区	1.52	0.50	58~61	27.80~27.84	27.22~27.23 整地層上面を検出。
10区	1.53	0.88	59~66	27.87~27.95	27.28~27.29 道路側溝を27.03mまで調査するも底面未到達。かわらけ12点、釘・ガラス各1点出土。
11区	1.50	0.60	61~62	27.93~28.01	27.31~27.40 上水道管のシートが出たため調査中止。
12区	1.53	0.78	34~40	27.94~27.95	—
13区	2.02	0.35	66~67	28.04~28.08	27.37~27.42 道路側溝を27.40mまで調査するも底面未到達。
14区	2.04	0.33	57~58	28.13~28.15	27.55~27.58 道路側溝を27.65mまで調査するも底面未到達。磁器1点。
15区	2.00	0.35	59~62	28.30~28.34	27.71~27.72 道路側溝を27.71mまで調査するも底面未到達。
16区	1.52	0.34	59~62	28.35~28.40	27.76~27.78 ガラス1点出土。
17区	1.53	0.32	59~64	28.38~28.44	27.78~27.80 ガラス1点出土。
18区	1.54	0.30	69~70	28.39~28.42	27.70~27.72 釘・ガラス各1点出土。
19区	1.55	0.31	53~56	28.49~28.51	27.93~27.98
20区	2.02	0.33	68~81	28.55~28.56	27.74~27.88 磁器1点出土。
21区	2.00	0.33	69~75	28.58~28.60	27.83~27.91
22区	1.61	0.34	62~72	28.75~28.76	28.03~28.14 磁器1点出土。

調査区	調査区 (m)		検出面まで の深さ (cm)	道路面標高 (m)	検出面標高 (m)	備 考
	全長	幅				
23区	1.52	0.35	58~60	28.78~28.82	28.20~28.22	道路側溝を一部調査するが底面未到達。
24区	1.53	0.33	60~61	28.92~28.94	28.32~28.33	かわらけ 1点出土。
25区	1.52	0.30	73~74	28.99~29.01	28.25~28.28	陶器（鉢）1点出土、磁器2点出土。
26区	1.54	0.37	69~72	29.17~29.18	28.45~28.49	かわらけ 1点出土。
27区	1.53	0.38	65~81	29.21~29.22	28.40~28.57	磁器 1点出土。

2・3区は欠番

### (3) 間知石

無量光院跡北西側では、北に隣接する猫間が淵との間が2 m程の高低差があるが、道路拡幅時の盛土造成によって本来の地形が埋められていたことから、12世紀当時の地形把握が課題となっていた。26・27区において道路拡幅前の間地石を検出した。調査区は現在の路側帯にあたっており、現在の道路は北側に向かって何時期か拡幅を行っていた可能性がある。

〈位置・検出状況〉 26・27区で検出した。

〈出土遺物〉 流れ込みの土器細片と磁器 1点が出土した。

## 4 出土遺物

今回の調査では、かわらけ、近代以降の陶磁器、鉄製品（釘）、ガラス製品、植物遺体等が出土した。

調査区が狭小であること、大半が近代以降の道路側溝もしくは現代の路盤からの出土のため、遺構に伴う遺物の出土量が少ないのが特徴である。

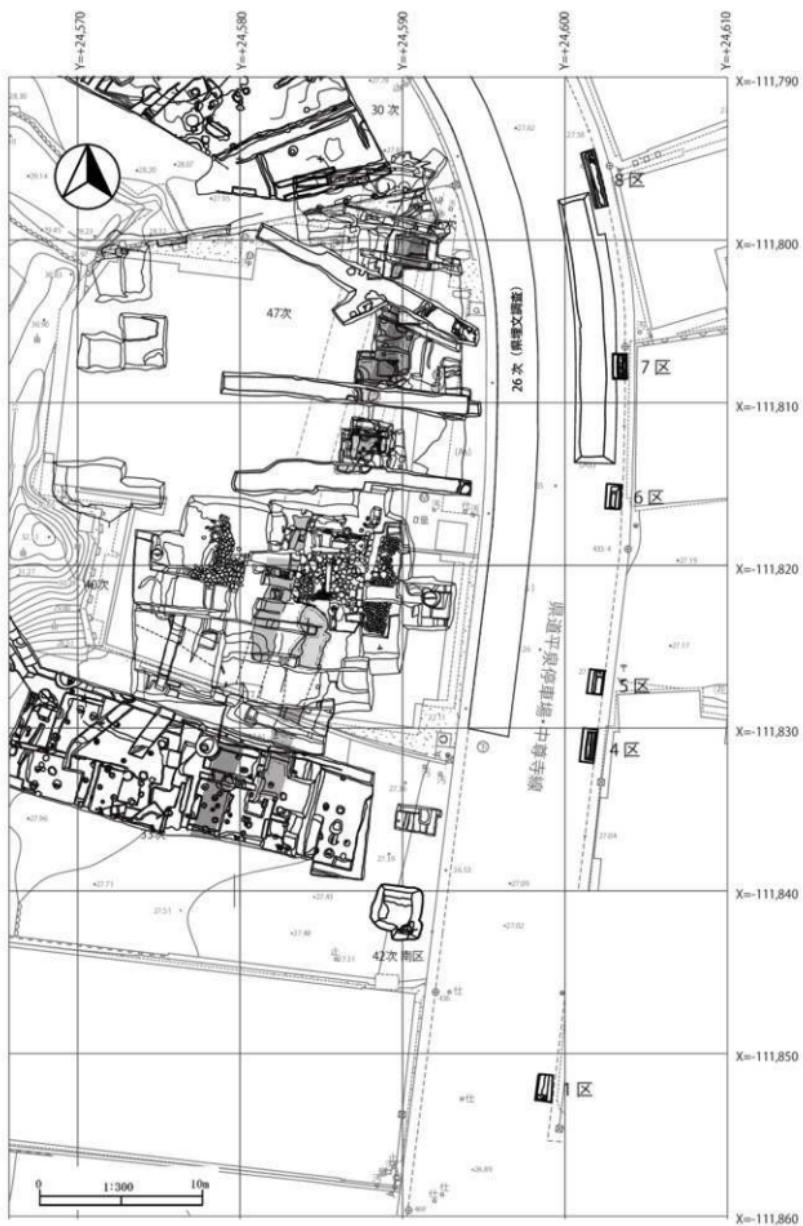
**かわらけ** 破片主体で13点出土した。大半が10区からの出土で無量光院跡に伴うと考えられる整地層からの出土である。手づくねとロクロかわらけが混在し劣化・剥離が著しい。破片が多く掲載できたものは10区の整地層から出土した手づくねかわらけ 1点 (No. 1) のみであった。他に 1・24・26区から各 1点出土しているが、近代の道路側溝埋土もしくは検出時の出土である。

**陶器** 近代以降の陶器が2点出土した。1・25区から各 1点（前者はすり鉢、後者は鉢）出土した。

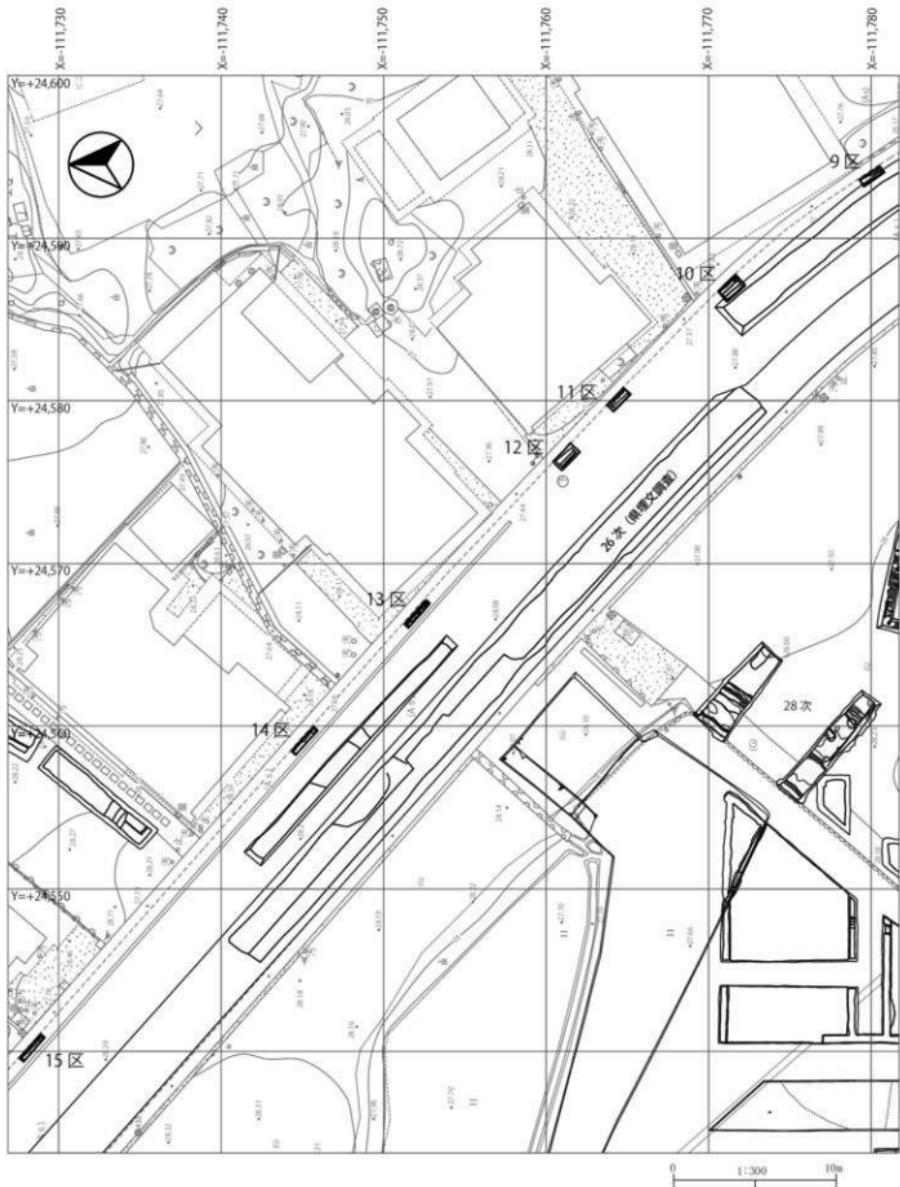
**磁器** 近代以降の磁器が12点出土した。細片主体で掲載できたのは、1区から出土した 2点 (No. 2・3) のみであった。

**金属製品** 10・18区から丸釘が各 1点出土した。

**ガラス製品** 1・5・10・17・18区からはガラス瓶の破片が少量出土した。



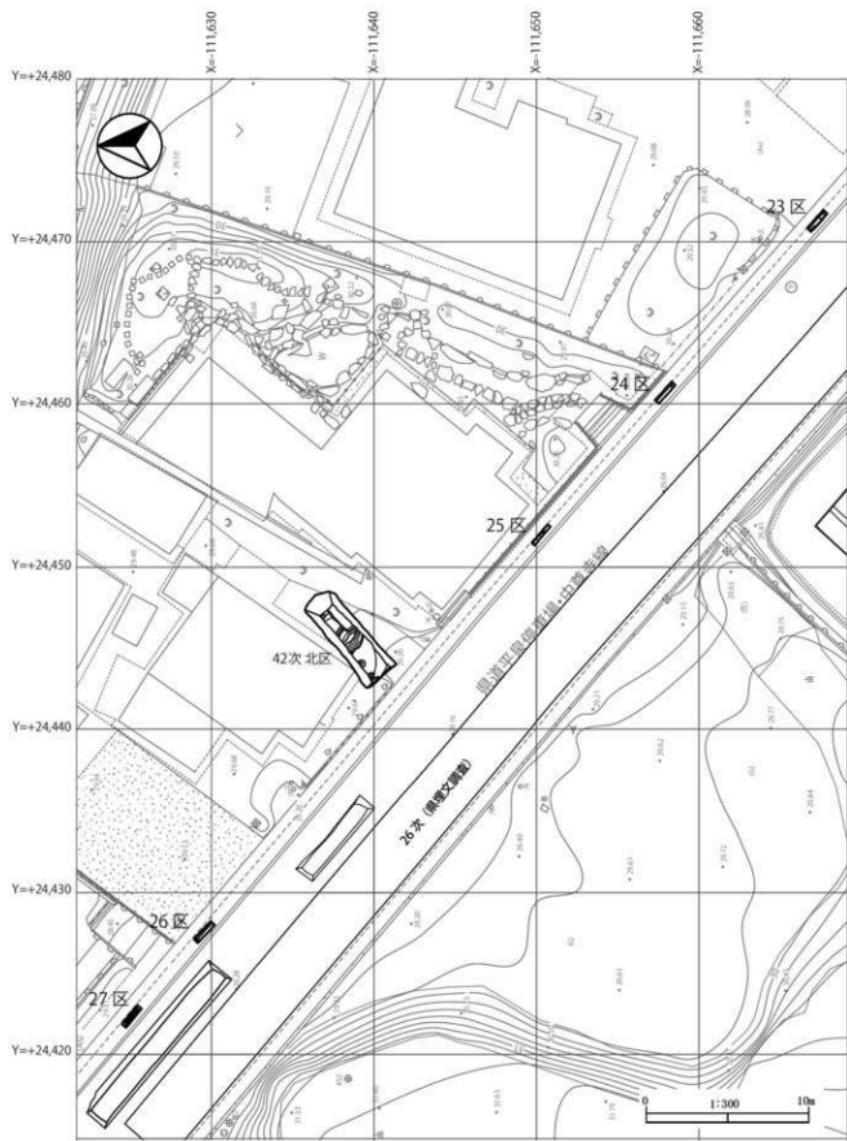
第4図 32次調査位置図（1）



第5図 32次調査位置図（2）



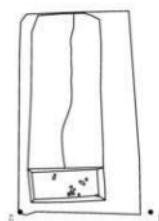
第6図 32次調査位置図（3）



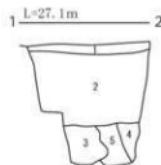
第7図 32次調査位置図（4）

1区

+



$X = -111.851$   
+  
N  
E  
S  
W

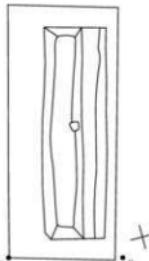


1区

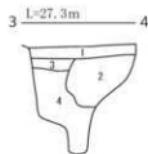
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 1066/1緑灰 しまり有 粘性有 2. SV5/1黄灰を層状に含 鉄分・磁石
4. 7. 807/1明緑灰砂質シルト しまり有 粘性やや有 有機質少量
5. 7. 815/1灰 しまりなし 粘性有 2. SV5/1灰砂質土  $\Phi 1 \sim 10\text{cm}$ 石を含 個含 磁の埋土

4区

+



$X = -111.832$   
+  
N  
E  
S  
W

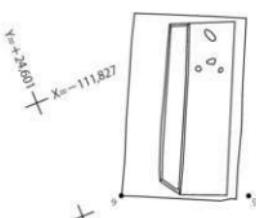


4区

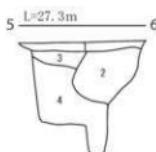
1. アスファルト
2. 1078/3切ぶくち 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\Phi 5 \sim 10\text{cm}$ の川原石混入
3. 機械ズリ
4. 2. SV4/1黄灰 しまりやや有 粘性有 1066/1緑灰と石含 上位を中心に有機質とガラス少量

5区

+



X



5区

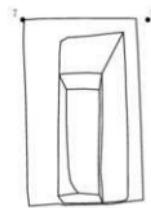
1. アスファルト
2. 1078/3切ぶくち 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\Phi 5 \sim 10\text{cm}$ の川原石混入
3. 機械ズリ
4. 2. SV4/1黄灰 しまりやや有 粘性有 1066/1緑灰と石含 上位を中心に有機質とガラス少量

0 1 : 40 2m

第8図 1・4・5区

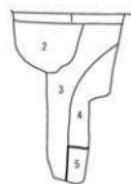
6区

$X=-111,815$   
 $Y=+24,602$



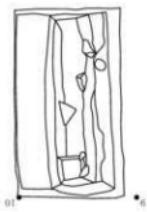
6区

7 L=27.5m 8



7区

$X=-111,808$   
 $Y=+24,650$



+

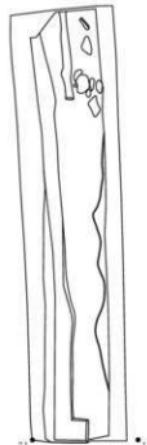
7区

9 L=27.6m 10



8区

$Y=+24,602$   
 $X=-111,797$



8区

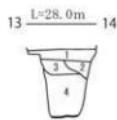
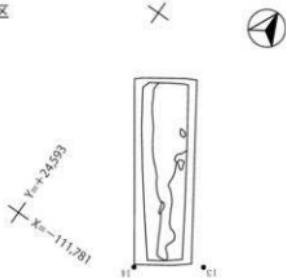
11 L=27.7m 12



0 1 : 40 2m

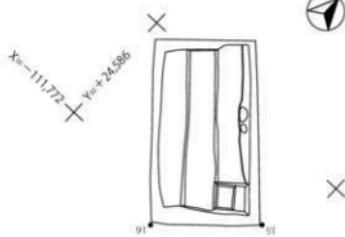
第9図 6~8区

9区



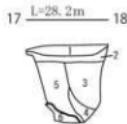
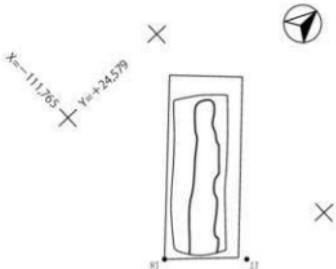
- 9区  
 1. アスファルト  
 2. 100%4/3に占比 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim10cm$   
 川原石混入  
 機械ズリ  
 3. 100%4/3に占比 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim10cm$   
 川原石混入

10区



- 10区  
 1. アスファルト  
 2. 100%2/3に占比 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim10cm$   
 川原石混入  
 機械ズリ  
 3. 100%3/3に占比 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim10cm$   
 川原石混入  
 4. 100%4/3に占比 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim10cm$   
 川原石混入  
 5. 100%1鉄筋 しまり有 粘性有 2.5%V/L黄灰を網状に含 鉄分、含炭(塑地層)  
 6. 100%5/3に占比 黄褐色砂質土 鉄分、炭、 $\phi 5\sim10cm$

11区

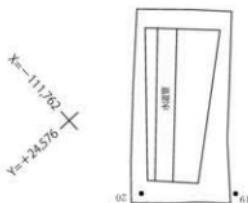


- 11区  
 1. アスファルト  
 2. 機械ズリ  
 3. 100%4/3に占比 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim10cm$ の川原石混入  
 4. 3.8%7/4浅黃色土 しまりやや有 粘性有  $\phi 5\sim10cm$ の川原石含  
 一部グライ化して100%1青灰化している  
 5. 100%4/3に占比 黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim10cm$ の川原石混入  
 6. 2. 3%6/4に占比 黄褐色土 しまり有 粘性有 一部2.5%6/4に占比 黄色土と  
 100%1青灰粘土含 塑地層

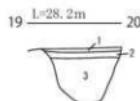


第10図 9~11区

12区



X



12区

1. アスファルト

2. 機械ズリ

3. 10%黄褐色の機械ズリと水道の埋め土

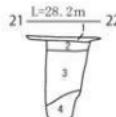
13区



X



X



13区

1. アスファルト

2. 機械ズリ

3. 10%黄褐色の機械ズリと水道の埋め土

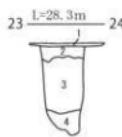
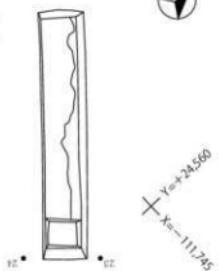
4. 川原石混入

4. 10%明礬灰砂質土 しまり有 粘性有 上位を中心に川原石及び  
10%明礬灰砂質土混入 帳含

14区



X



14区

1. アスファルト

2. 機械ズリ

3. 10%黄褐色の機械ズリと水道の埋め土

4. 10%明礬灰砂質シート しまり有 粘性やや有 有機質少量

0 1 : 40 2m

第11図 12~14区

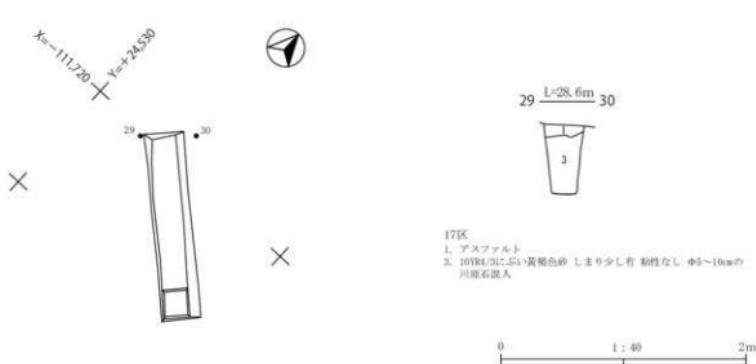
15区



16区



17区



第12図 15~17区

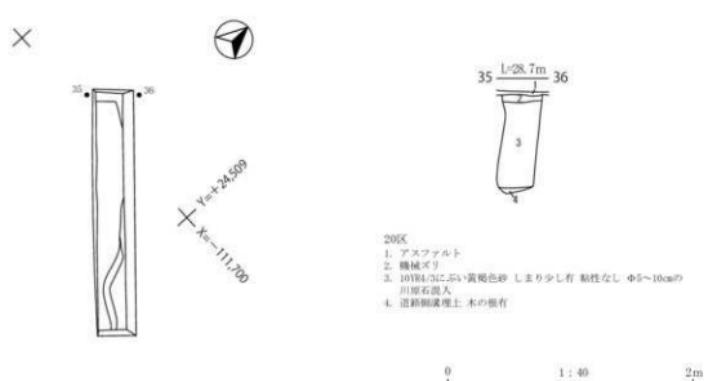
18区



19区

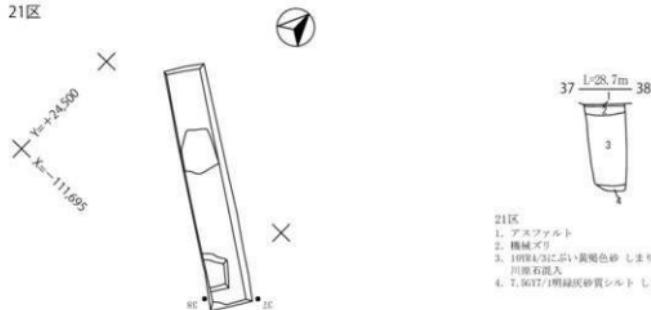


20区

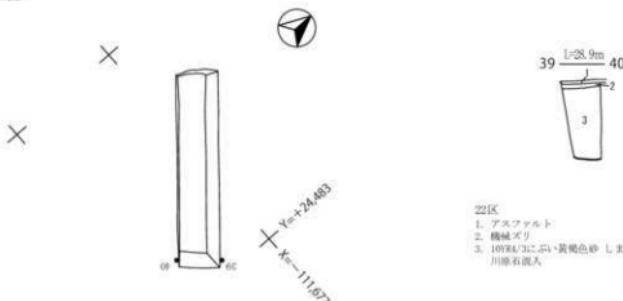


第13図 18~20区

21区



22区



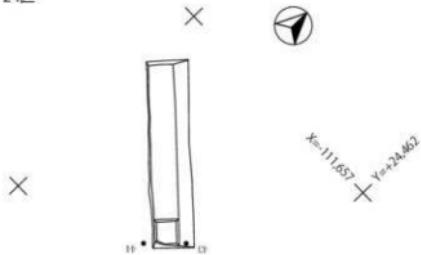
23区



0 1 : 40 2m

第14図 21~23区

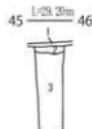
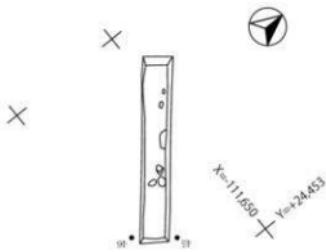
24区



24区

1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10TVA/3Lにいぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim 10cm$ の川敷石混入

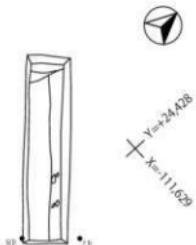
25区



25区

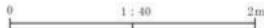
1. アスファルト
2. 機械ズリ
3. 10TVA/3Lにいぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim 10cm$ の川敷石混入

26区



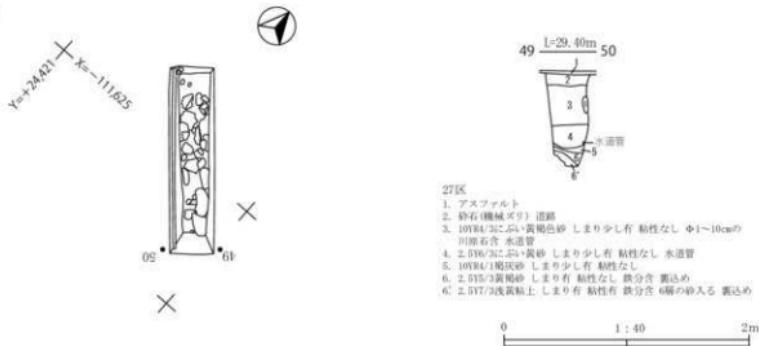
26区

1. アスファルト
2. 機械ズリと黄褐色粘土の混合
3. 10TVA/3Lにいぶい黄褐色砂 しまり少し有 粘性なし  $\phi 5\sim 10cm$ の川敷石混入



第15図 24~26区

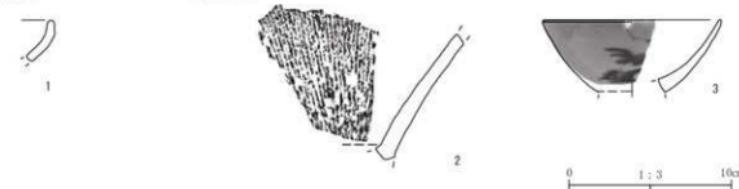
27区



第16図 27区

かわらけ

近代陶器



第17図 32次調査出土遺物

第3表 かわらけ観察表

No.	出土位置・層位	種類	法量(cm)			残存率(%)	年代	備考	登録No.
			口径	底径	器高				
1	106C	手づくね大	—	—	—	小片	12c		15

第4表 陶磁器観察表

No.	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
2	1区 4層		すり鉢	体～底	19C以降	内面にろし目有	22
3	1区 5層		碗	口縁～体	19C以降	反転実測 内外釉有 外面染付 口径(11.0cm)	23



1区調査前（南西から）



4・5区調査前（北から）



1区平面（東から）



1区断面（北から）



4区平面（東から）



4区断面（北から）



5区平面（東から）



5区断面（北から）

写真図版1 1・4・5区



6区平面（東から）



6区断面（南から）



7区平面（東から）



7区断面（北から）



6・7区調査前（西から）



8区調査前（南から）



9区調査前（南西から）



10区調査前（南西から）

写真図版2 6～10区



8区平面（西から）



8区断面（北から）



8区西侧平面（西から）



8区東側平面（西から）



9区平面（南西から）



9区断面（北西から）



10区平面（南西から）



10区断面（北西から）

写真図版3 8～10区



11・12区調査前（南西から）



13区調査前（西から）



11区平面（北東から）



11区断面（北西から）



12区平面（北東から）



12区断面（北西から）



13区平面（北東から）



13区断面（南西から）

写真図版4 11～13区



14区調査前（南西から）



15～17区調査前（南東から）



14区平面（北東から）



14区断面（北西から）



15区平面（北東から）



15区断面（北西から）



16区平面（北東から）



16区断面（北西から）

写真図版5 14～17区



17区平面（北東から）



17区断面（南東から）



18区調査前（北西から）



19・20区調査前（北西から）



18区平面（北東から）



18区平面（北東から）



19区平面（北東から）



19区断面（南東から）

写真図版6 17~20区



20区平面（北東から）



20区断面（南東から）



21区調査前（北西から）



22・23区調査前（北西から）



21区平面（北東から）



23区平面（北東から）



22区平面（北東から）



22区断面（北西から）

写真図版7 20~23区



24区平面（北東から）



24区断面（北西から）



24・25区調査前（南東から）



26・27区調査前（南東から）



25区平面（北東から）



25区断面（北西から）



26区平面（北東から）



27区平面（北東から）

写真図版8 24~27区

## IV 無量光院跡第42次調査の概要

### 1 調査目的

岩手県が進める防災安全事業に伴い、県道平泉停車場中尊寺線の電線地中化及び道路改良事業を実施することになった。特別史跡無量光院跡内の共同溝の延長は320m、地上機は4箇所の設置が予定されていた。平成24年度に行われた内容確認調査（平成24年5月18日付 24受庁財第4号の76許可）の成果に基づき、設計変更協議を行い、平成29年7月21日付で文化庁の許可を得て事業が進められた（平成29年7月21日付 29受庁財第4号の682で許可）、そのうち二箇所の地上機設置予定箇所について、前述の内容確認調査で未実施であったことから、岩手県教育委員会の指導・調整を経て、平泉町教育委員会が発掘調査を行うことになった。平成31年2月8日付で契約を行い、事前測量を経て3月6日から発掘調査を開始し、同26日に調査を完了した。

### 2 調査方法

今回の調査は地上機二箇所を対象とした調査である。北側を北区、南側を南区と呼称する。対象地内には既存の工事立会及び試掘調査が行われた箇所が含まれていることから、その部分を除外して調査を進めた。

### 3 調査概要

検出遺構は溝1条、整地層、柱穴1個である。以下、調査区毎に記載する。

#### （1）北区

全面で無量光院跡の整地層を検出し、その下層から溝跡（S D 1）を検出した。調査区はかつて住宅があった地点で道路際の南側が低く北側が若干高い地形であった。全面で整地層が1.05～1.8m程厚く堆積しており、その下から地山面を検出した。整地層は地山起源の明黄褐色シルトや黄褐色粘土が85～135cm盛土され、その下層には最大厚10cmの炭やかわらけを含む層（27層）が、その下に腐植土を含む黒褐色粘土（29層）が堆積していた。本来の地形は南西から北東方向に下る緩い傾斜を呈していた。

整地層の下からは、幅1.2m、深さ50cmの溝（S D 1）を延長1.2m程確認し、その下層には灰黃砂を主体とした整地層が堆積していた。堆積の流れは南から北へ土砂が堆積することが看取され、出土遺物の年代から無量光院跡造営期と判断される。ただし、整地層下 S D 1 及び27・29層は無量光院以前である可能性が高い。

〈出土遺物〉 整地層からはかわらけや陶器・漆器などが出土した。S D 1 からはかわらけ、中国産磁器、国産陶器や砥石が出土している。なお、整地層下の27・29層からはロクロかわらけの出土が多い傾向があった。

#### （2）南区

本調査区は、既存の発掘調査成果から地上機の設置位置を重要遺構に抵触しないよう協議を進め設定した調査区である。全体的に搅乱が著しかったものの柱穴を1個検出した。

〈柱穴〉 調査区南東隅で検出した。円形状を呈し、径65×[40] cm、深さ88cmを測る。埋土からかわらけ片が出土しているが流れ込みのため、柱穴の帰属時期は不明である。

〈出土遺物〉 かわらけ、近世・現代遺物が出土した。

## 4 出土遺物

今回の調査では、かわらけがコンテナ3箱、中国産白磁3点、中世国産陶器3点、漆器2点、砾石1点等が出土した。かわらけは北区整地層を主体としてSD1や柱穴・表土水田層などから出土している。整地層は破片主体であるが、北区整地層下の27・29層からは状態のよいものが認められる。

**かわらけ** コンテナ3箱出土し、残存率の高い27点を掲載した(No.1~27)。手づくね、ロクロ双方出土しているが、実測可能な個体はロクロが多い。北区のSD1と整地層中からの出土が多い。

**中国産磁** 中国産白磁壺片が3点出土した。北区整地層とSD1から各1点(No.28・29)、南区の覆土中から1点(No.30)出土し全て掲載した。

**国産陶器** 涼美甕片が北区SD1埋土から1点(No.31)、須恵器系甕片が整地層中から1点(No.32)、南区地山直上から常滑片が1点(No.33)出土し、掲載した。

**土壁** 北区の整地層下やSD1から31点出土した。このうち2点(No.37・39)を掲載した。

**羽口** 北区の整地層中から破片が1点出土した。

**粘土塊** 北区27層から1点出土した。1.5×1.5cmの板状三角形で、指で押して反らせた形状をしている。

**近世陶磁器** 南区からの肥前産磁器碗と大堀相馬産の可能性のある陶器碗が各1点出土した。

**金属製品** 北区SD1から角釘2点が出土した。

**漆器椀** 北区の整地層中から漆器椀の漆被膜が2点(No.56・57)出土し、写真掲載した。

**植物遺体** SD1の下層から桃類の種の破片3点が出土した。

**砥石** SD1の下層からNo.59の砥石1点が出土し、掲載した。

第5表 かわらけ観察表 ( ) 推定値 ( ) 残存値

No.	図版	写真	出土位置・層位	種類	法量(cm)	底径	器高	残存率(%)	年代	備考	登録No.
1	20	12	北区27層	手づくね大	(13.8)	—	(3.1)	30	12C	スノコ底 底部欠損	1-7, 2-5, 17-5
2	20	12	北区SD1下層	手づくね大	(15.0)	—	2.4~3.3	50	12C		84, 93-4
3	20	12	北区SD1上層	手づくね小	(9.0)	—	2.1	50	12C	内面口縁に付着着明黒帯	46-7
4	20	12	北区SD1下層	手づくね小	(8.2)	—	(1.5)	30	12C	底部欠損	89
5	20	12	北区27層	ロクロ大	(13.8)	(9.0)	3.5~3.8	40	12C	穿孔 スノコ底	3
6	20	12	北区27層	ロクロ大	—	(9.6)	(1.9)	底面のみ	12C	スノコ底 円柱造り技法 内外底に回転糸切り模 円盤2枚内合せで重ねた形狀 上に部体が乗る	30
7	20	12	北区27層	ロクロ大	(14.8)	(7.0)	3.5	30	12C		14-4, 24-2, 32
8	20	12	北区SD1中位層	ロクロ大	14.9	8.8	2.8~3.5	70	12C		42-1, 44
9	20	12	北区SD1上層	ロクロ大	(13.4)	(7.1)	3.2	30	12C	内外面被熱保付着	47-5
10	20	12	北区SD1上層	ロクロ大	—	(8.8)	(1.6)	30	12C	スノコ底 内面に指痕 高台貼り付けか	47-6
11	20	12	北区SD1下層	ロクロ大	—	(8.0)	(1.8)	30	12C	スノコ底 内面煤付着	91, 92, 93-5, 46-6
12	20	12	北区27層	ロクロ大	(13.3)	7.5~8.0	2.4~3.5	70	12C	スノコ底 亀裂入ったまま焼成か	100
13	20	12	北区27層	ロクロ大	13.4	7.5	2.8~3.5	70	12C	摩滅	108, 114-3~4
14	20	12	北区SD1底	ロクロ大	—	6.6	(1.2)	40		円盤状に加工か	50
15	20	12	北区整地層	ロクロ小	8.8	6.2	1.3~1.8	完形	12C	スノコ底	2-2
16	21	12	北区27層	ロクロ小	8.5	6.1	1.2~1.6	70	12C	摩滅	6
17	21	12	北区27層	ロクロ小	(8.6)	6.0	1.5~1.8	70	12C	摩滅	28
18	21	12	北区SD1上層	ロクロ小	—	6.1~6.5	(1.7)	80	12C	スノコ底 口縁部欠損	38
19	21	12	北区SD1上層	ロクロ小	(8.8)	6.8	(1.9)	80	12C	スノコ底 口縁部ほぼ欠損	46-8
20	21	12	北区SD1下層	ロクロ小	9.9	6.7~6.9	2.2	80	12C	スノコ底 内外面煤付着	79
21	21	12	北区SD1下層	ロクロ小	(9.2)	5.9	1.8~2.0	50	12C	内外面煤付着	80
22	21	12	北区SD1下層	ロクロ小	(8.8)	6.0~6.3	1.7	70	12C	スノコ底	81
23	21	12	北区SD1下層	ロクロ小	(9.2)	5.8	1.6~1.9	60	12C		82
24	21	12	北区SD1下層	ロクロ小	8.7	5.7	1.5~1.7	完形	12C	スノコ底 内外面に煤	85
25	21	12	北区SD1下層	ロクロ小	8.8~9.1	6.2	1.5~1.9	完形	12C	剥みあり	88
26	21	12	北区SD1下層	ロクロ小	—	5.6	(1.1)	50	12C	スノコ底 外面に煤	129
27	21	12	南区断面3-4層	ロクロ小	—	6.6	(1.5)	40	12C	摩滅 口縁部欠損	26

第6表 中国産器観察表

No.	国版	写真	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
28	21	12	北区整地下層	白磁	壺	胴部	12C	皿系	1-2
29	21	12	北区SD1下層	白磁	壺	胴部	12C	皿系 28と同一個体か	86
30	21	12	南区柱穴上面	白磁	壺	胴部	12C	皿系	11-2

第7表 国産陶器観察表

No.	国版	写真	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
31	21	12	北区SD1上層	泥瓦	甕	胴部	12C	押印	34
32	21	12	北区27-28層	須恵器系	甕	胴部	12C	タタキ	113-2
33	21	12	南区北側山底上層	常滑	甕	胴部	12C	中型變か	10-3

第8表 土壁観察表

〔 〕残存値

No.	国版	写真	出土位置・層位	法量(cm)			重量(g)	ササの有無	備考	登録No.
34	-	-	北区整地下層	[1.2]~[2.5]			12.8	有	3点	1-3
35	-	-	北区整地下層	[1.0]~[2.7]			11.8	有	3点	14-2
36	-	-	北区27層	[1.0]~[2.3]			23.4	有	3点	17-2
37	21	12	北区27層	[3.1]~[7.5]			86.0	有	一部炭化	18-2
38	-	-	北区SD1上層	[1.2]~[2.4]			5.4	有	2点	46-2
39	21	12	北区SD1上層	[2.8]~[5.0]			38.7	有	一部炭化	47-2
40	-	-	北区SD1上層	[0.9]~[2.6]			10.2	有	3点	48-2
41	-	-	北区27層	[0.9]~[2.8]			3.2	有		49-2
42	-	-	北区SD1上層	[1.1]~[2.5]			2.6	有		62-2
43	-	-	北区SD1上層	[1.6]~[2.9]			13.3	有	2点	66-2
44	-	-	北区整地層	[0.9]~[1.3]			1.0	無		69-2
45	-	-	北区SD1上層	[2.1]~[2.7]			14.3	有		75-2
46	-	-	北区SD1上層	[1.8]~[2.5]			9.8	有		98-2
47	-	-	北区27層対応	[1.3]~[3.4]			27.0	有	5点	115-2
48	-	-	北区27層	[1.4]~[2.4]			4.2	有		123-2
49	-	-	北区SD1下層	[0.6]~[3.6]			9.1	有	2点	148-2

第9表 羽口観察表

〔 〕残存値

No.	国版	写真	出土位置・層位	法量(cm)			重量(g)	備考	登録No.
			長さ	幅	厚さ				
50	-	-	北区27層	[2.7]	[2.0]	[1.1]	5.7		49-6

第10表 近世陶器観察表

No.	国版	写真	出土位置・層位	種類	器種	部位	年代	備考	登録No.
51	-	-	南区理土上層	大堀相馬か	陶器碗	体部	近世か	中国産青磁に似るが輪郭が厚い	2-4
52	-	-	南区清掃と擾乱	肥前	磁器碗	体部	近世		3-2

第11表 金属製品観察表

No.	国版	写真	出土位置・層位	種類	法量(cm)			重量(g)	備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ			
53	-	-	北区SD1下層	角釘か	5.3	0.7	0.5	6.1		16-3
54	-	-	北区SD1上層	角釘か	4.8	0.5	0.4	1.7		48-4

第12表 鉄滓観察表

No.	国版	写真	出土位置・層位	大きさ(cm)	重量(g)	組着	備考	登録No.
55	-	-	北区整地層	3.8×2.8	32.0	有		51-3

第13表 漆器観察表

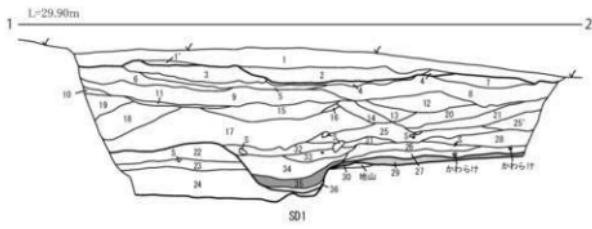
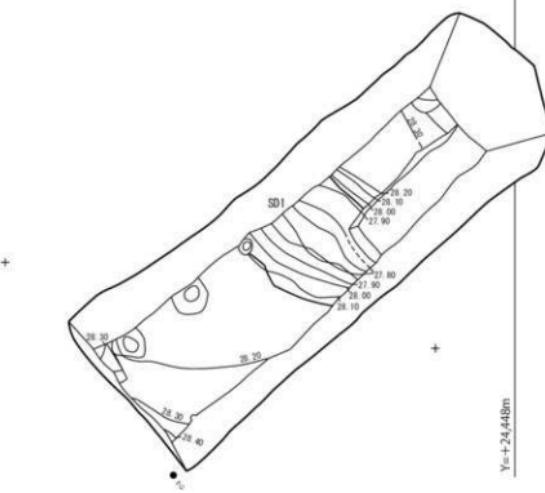
No.	国版	写真	出土位置・層位	種類	器種	大きさ(cm)	備考	登録No.
						径 高さ		
56	-	12	北区整地層	漆器	椀	12.5~13.8 5.0	被膜のみ 底径8cm程度	12
57	-	12	北区整地層	漆器	椀	8.8~11.0 -	被膜のみ 3片	11

第14表 種子観察表

No.	国版	写真	出土位置・層位	種類	大きさ(cm)	備考	登録No.
58	-	-	北区SD1下層	桃核	-	細片3点	148-3

第15表 石製品観察表

No.	国版	写真	出土位置・層位	種類	法量(cm)			重量(g)	色調	備考	登録No.
					長さ	幅	厚さ				
59	21	12	北区SD1下層	砾石	6.6	4.6	2.0	78.9	灰白	5面に擦痕	110

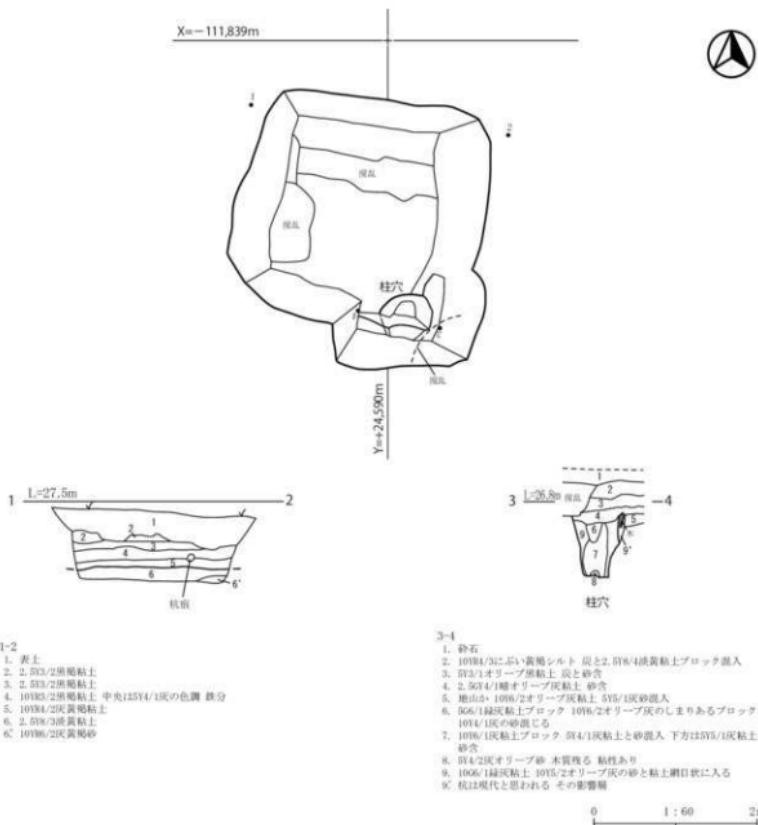


1. 表土
2. 黄土
3. 2.5m/2層灰黃粘土と砂 2.5m/6.2cm灰黃粘土地盤分合 下辺はシルトへ砂と層位状堆積
4. 10m/6.9cm灰黃粘土と砂 7cm/ロック 2.5m/2層灰黃粘土ブロック混入
5. 10m/3.2cm灰層シルト 2.5m/2層灰黃粘土ブロック 2.3m/7.2cm灰黃粘土ブロック混合
6. 2.5m/3cm灰黃
7. 2.5m/6.7cmにぶら、露頭 固くしまり有 2.5m/2cm灰黃粘土ブロック混入
8. 2.5m/6.2cm灰黃シルト同色粘土と0.08m/6cmにぶら、露頭粘土ブロック混入 底含
9. 10m/6.8cm灰黃粘土シルト 2.5m/2cm灰黃シルト少し混入
10. 2.5m/6.2cm灰黃粘土シルト 2.5m/2cm灰黃粘土シルト
11. 2.5m/4.2cm灰黃粘土シルト上混じる 2.5m/7.4cm灰黃と10m/5.6cm厚の粘土ブロック混入
12. 2.5m/5.2cm灰黃粘土 10m/5.6cm灰黃粘土ブロック混入 底含 砂分有
13. 2.5m/5.2cm灰黃粘土 10m/5.6cm灰黃粘土ブロック 2.5m/7.2cm灰層シルトブロック混入
14. 10m/5.6cm灰黃粘土と10m/3.1cm黒粘土ブロック粘成 砂分、泥多く含 上の方は15層構成
15. 10m/4.1cm灰黃粘土 2.5m/4cm灰黃と10m/5.6cm灰黃粘土ブロック混入
16. 10m/5.6cm灰黃粘土と10m/3.1cm黒粘土ブロック粘成 砂分、泥多く含
17. 10m/5.6cm灰黃粘土と10m/3.1cm黒粘土ブロック構成、西上方から東下方に向かって傾斜した堆積状況を示す 砂分、底含
18. 10m/5.6cm灰黃粘土ブロック 10m/4.1cm灰黃粘土上混じる 従
19. 10m/5.2cm灰黃粘土シルト 2.5m/7.2cm灰黃シルト混じる

20. 10m/5.2cmにぶら、露頭砂 7.2m/8.0cm厚と2.5m/3.2cmにぶら、黄の粘土ブロック混入
21. 2.5m/2cm灰黃粘土砂 7.5m/5.9cm灰黃粘土ブロック少し混入 底含
22. 2.5m/2cm灰黃粘土 2.5m/7.4cm灰黃粘土ブロック混入 10m/4.2cm灰黃粘土上混入 鉄分含
23. 5.17m/2cm白砂河原色粘土上7cm/ロック 2.5m/4.2cm灰粘土混入 1cmの大の小まじり
24. 2.5m/2cm灰黃粘土 同色粘土ブロック混入
25. 2.5m/5.6cm灰黃粘土ブロック 2.5m/4.1cm灰黃と2.5m/7.1cm白粘土混入
26. 10m/5.6cm灰黃粘土 2.5m/7.2cm灰黃粘土 2.5m/2cm灰黃粘土混入
27. 2.5m/4.1cm灰黃粘土 2.5m/7.2cm灰黃シルトブロック混入 底含
28. 2.5m/4.1cm灰黃粘土シルト 2.5m/6.7cmにぶら、黄の粘土ブロック混入 底含
29. 2.5m/4.1cm灰黃粘土シルト 10m/5.6cm厚の灰黃粘土ブロック混入 底含
30. 2.5m/2cm灰黃粘土 40度ほど 岩含
31. 10m/5.2cm灰黃粘土 2.5m/5.6cm灰黃粘土ブロック少し混入
32. 2.5m/7.2cm灰黃粘土ブロック 2.5m/5.2cm灰黃粘土ブロック少し混入 10m/5.2cm灰黃粘土
33. 2.5m/4.2cm灰黃粘土 2.5m/4.1cm灰黃と2.5m/7.0cm厚の灰黃粘土ブロック混入
34. 2.5m/5.2cm灰黃粘土 10m/7.2cm白粘土ブロック 砂、底含混入
35. 10m/4.2cm灰黃粘土 5m/4.2cmオリーブ砂と底混じる
36. 10m/3.2cm灰黃粘土 10m/3.1cm水分子含む 灰層
- 地山 10m/6.2cmオリーブ砂 砂 5m/7.4m/6cm砂

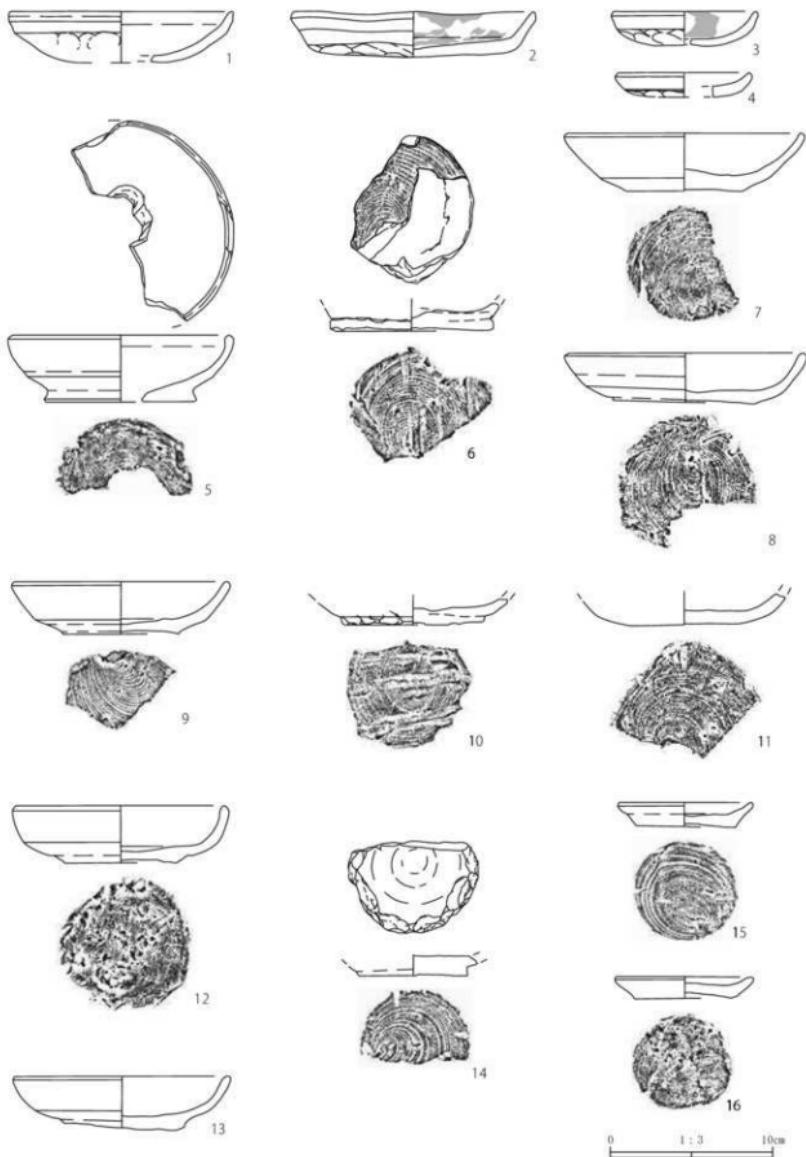
0 1 : 60 2m

第18図 42次調査北区

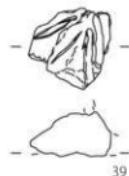
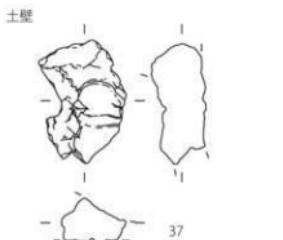
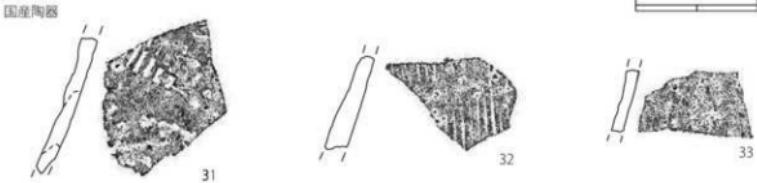
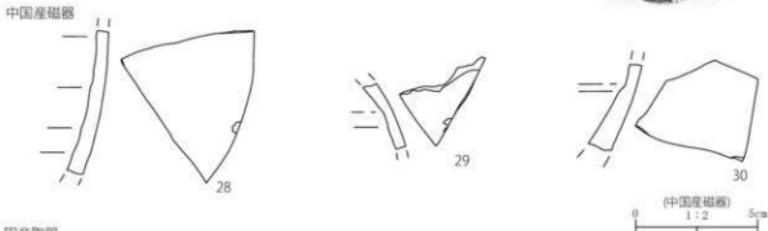
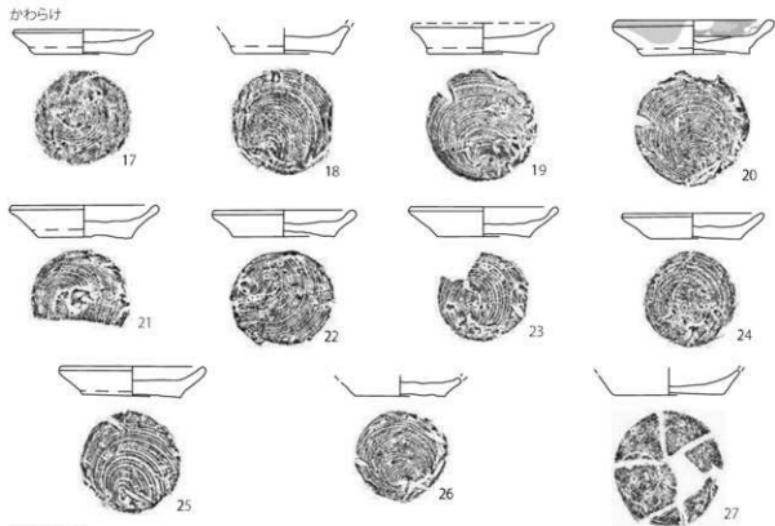


第19図 42次調査南区

かわらけ



第20図 42次調査出土遺物（1）



第21図 42次調査出土遺物（2）



北区（北東から）



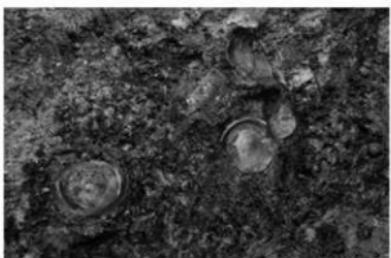
調査前風景（南西から）



表土除去後（西から）



遺物出土状況1（北西から）



遺物出土状況2（北西から）

写真図版9 42次調査北区（1）



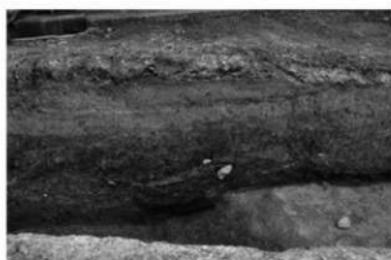
北区断面 1-2 (北西から)



断面 1-2 拡大 1 (北西から)



断面 1-2 拡大 2 (北西から)



断面 1-2 拡大 3 (北西から)



溝断面 (南東から)

写真図版10 42次調査北区 (2)



南区（北から）



調査前風景（東から）



調査風景（南から）



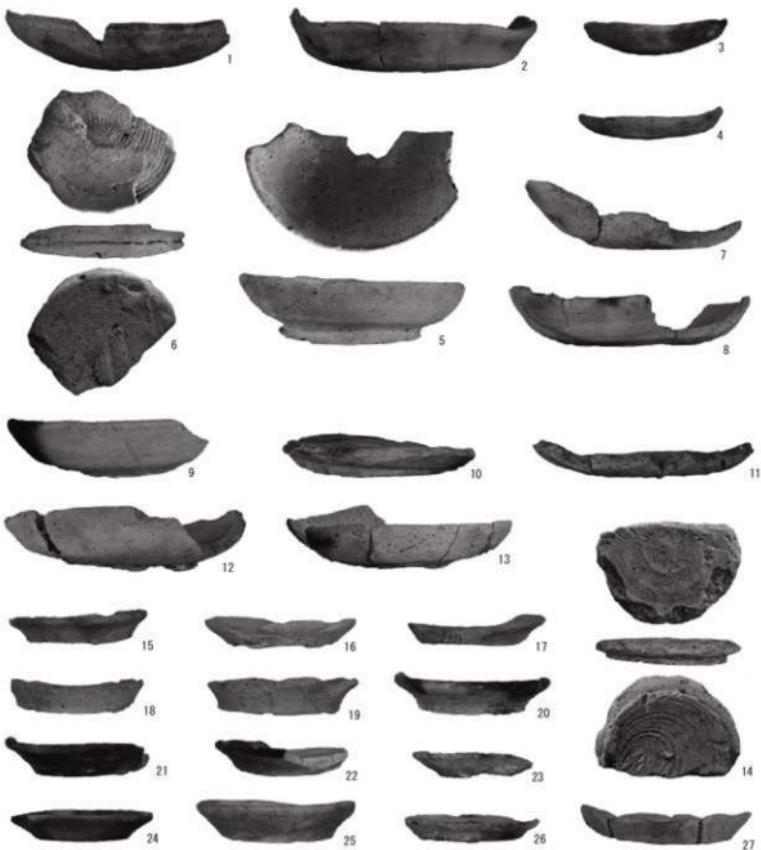
柱穴検出状況（西から）



柱穴断面（北から）

写真図版11 42次調査南区

かわらけ



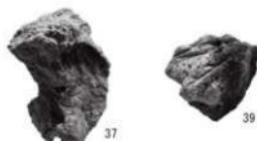
中国産陶磁器



国产陶器



土壁



石製品



写真図版12 42次調査出土遺物

## V 工事立会調査の概要

電線共同溝本線部分の調査は（公財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターによって平成24年度に行われ（26次）、本線から各家庭へ延びる引き込み線部分及び地上機設置予定箇所において、前者は32次調査として後者は42次調査として平泉町教育委員会が実施した。しかし、道路部分は片側交互通行で交通規制しながら調査を行った関係上、道路のセンターライン部分の調査を行なえなかった。また、上水道・下水道の配管が入っている箇所、道路の交差点部分においても、調査を行っていない箇所があった。

当該箇所については、工事施工時の立会で遺構の有無を確認しながら調査を行った。また、岩手県教育委員会の依頼で地上機の設置予定箇所を中心に、事前に試掘調査を行い、その所見を基に設置予定箇所や掘削深度の調整を行った箇所もある。

このような調整や工事立会箇所が複数あったことから、本報告書内において立会箇所の履歴を第16表に記すことにした。

また、伽羅之御所跡23次調査では12世紀の堀跡（2号堀跡）が確認されているが、その後未調査であった部分に電線共同溝本体の施工が行われることになった。その際、岩手県教育委員会からの依頼に基づき、工事立会調査を行ったが、その時の調査概要について触れる。

2号堀跡は幅約5m、深さ1.8~1.9m（道路面から底面までは約2.4m）を測る。  
本事業の施工では道路面から1.4mまでの掘削であるため、当該部分（幅約0.8m）の確認を行った。

南側の上場は搅乱によって、中央付近で下水道の掘方によって搅乱されている箇所はあるものの全体的に良好な状態で残存していた。今回の立会では23次調査での2~4・5層を確認した。遺物が多く出土するとされていた堀下層に掘削は及ばないことが幸いであった。2層では近現代の陶器を確認し、4層ではかわらけが少量出土した。報告書では2~4層は12世紀の堆積土としていたが、断面観察及び出土遺物から2・3層については12世紀の堆積土ではなく、2層は近代の堆積層、3層は近世の堆積層である可能性が高いと考えられる。4層は從前どおり12世紀段階の堆積層と判断した。



立会箇所全景（北西から）



立会箇所断面（西から）

第16表 工事立会調査履歴

	立会日	遺跡名	場 所	所 見
1	H28.11.24	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	立会地点は、12世紀の掘立柱建物が確認されており、遺構の位置確認を目的とした試掘調査を行った。 当該掘立柱建物を構成する柱穴1個を検出し、位置・検出面標高を確認し、試掘は終了した。
2	H28.12.9	無量光院跡	平泉字花立124地先	無量光院跡西側土壘に隣接する堀跡推定地において、地上機設置が予定されており、地下遺構への影響を極少とするため、堀の法面位置確認のためのトレンチ調査を行った。 地表面から約50cm下において、当該堀跡の法面及び埋土を検出し、位置・検出面標高を確認し、試掘は終了した。
3	H29.1.27	伽羅之御所跡		支障無
4	H29.2.1	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	伽羅之御所跡第22次調査では、12世紀の掘立柱建物跡(1号掘立柱建物跡)が確認されている。同調査の際に未調査であった道路敷内で柱穴の存在が想定された箇所での試掘を行った。当該掘立柱建物を構成する柱穴は確認されず、地山面標高を確認した。
5	H29.2.8	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	伽羅之御所跡第22次1号掘立柱建物跡を構成する柱穴P252・254を保全するため、検出位置及び標高を再確認し、施工位置を再調査するための試掘調査を行った。
6	H29.9.26	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	本文参照(44頁)
7	H29.9.29~10.2	伽羅之御所跡	平泉字花立215-3地先	伽羅之御所跡第22次2号堀跡周辺の工事立会を行った。上下水道の掘り方による搅乱が一部確認されたものの、遺構は未検出。
8	H29.10.19・20	伽羅之御所跡	平泉字伽羅東	遺構無・遺物無
9	H29.12.21	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構無・遺物無
10	H30.7.17~20	無量光院跡	平泉字柳御所157周辺	遺構無・遺物無
11	H30.9.28~10.4	無量光院跡	平泉字花立地内	既存の側溝撤去時に立会を行った。明確な遺構は確認されていないが、無量光院跡の整地層を検出した。42次調査北区南東では表土直下、同南西側では表土下30~50cmで、32次26区南西側では、表土(層厚80cm)下から、整地層を検出した。西側に向かうについて整地層の確認面が低くなる傾向を確認した。
12	H30.10.9~10.12	衣闌遺跡	平泉字衣闌地内	遺構無・遺物無
13	H30.10.17	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構無・遺物無
14	H30.10.23	無量光院跡	平泉字柳御所地内	遺構無・遺物無
15	H30.10.24	無量光院跡	平泉字花立地内	42次調査南区の道路端付近の立会。現地表面から80cmまで搅乱もしくは路盤が堆積している。その直下から現在の道路側溝から約50~100cmの範囲で近世~近代道路側溝のプランを確認した。
16	H30.10.30	無量光院跡	平泉字花立地内	42次調査南区調査区付近の試掘。
17	H30.10.30	無量光院跡	平泉字柳御所地内	史跡外の地上機設置予定箇所の試掘。近代以降の溝を検出。
18	H30.10.30	無量光院跡	平泉字柳御所地内	42次調査北区の試掘。整地層を確認したため、本調査に切り替え対応することとなった。
19	H30.10.30	無量光院跡	平泉字柳御所地内	遺構・遺物無
20	H30.11.27	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
21	H30.12.11	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
22	H31.1.15	無量光院跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
23	H31.2.20	伽羅之御所跡	平泉字泉屋地内	遺構・遺物無
24	R 1.12.10~16	衣闌遺跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
25	R 2.9.8	衣闌遺跡	中尊寺道踏切脇	遺構・遺物無
26	R 2.9.15~16	伽羅之御所跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無
27	R 3.2.3	伽羅之御所跡	平泉字花立地内	遺構・遺物無

## VII まとめ

今回の調査では、これまで未実施であった電線共同溝本線から各家庭へ延びる引き込み線部分（32次）及び地上機設置予定箇所（42次）においての調査を行った。

以下、次数ごとにまとめを記す。

### （1）32次調査

32次調査においては、9・10区では12世紀の整地層を確認したが、調査区の大半では近代以降の道路側溝によって12世紀の遺構面が失われていた。同様に池岸及び排水部分に近い調査区（14・19～21区）において無量光院跡の園池に伴う遺構が検出されることが期待されたが、近代以降の道路側溝によって失われている状況を確認した。今回の調査地点が現在の道路側溝に近接しており、近代以降連續と側溝が階襲されていたともいえる成果である。また、無量光院跡は北側を猫間が淵の低地と接しているが、北側縁辺部は北西隅に向かうにつれて徐々に県道に近くなり、26・27区では近代以降の間知石が検出され、12世紀段階での北西端は県道北側に位置する様相がうかがえた。26次調査では西側土壠西側の堀が県道下まで延びていることが確認されているが、この堀がどの位置で猫間が淵と接しているかが課題となっており、北西隅における無量光院跡の縁辺と西側土壠脇にある堀との位置関係を整理する必要がある。

### （2）42次調査

検出遺構は溝1条、整地層、柱穴1個である。

〈北区〉 全面で無量光院跡の整地層を検出し、その下層から溝跡（S D 1）を検出した。地山面は現在の地形と異なり、南から北へ傾斜する様相を呈していた。その地山面に①溝及び整地層を設け、②無量光院跡造営時に溝を埋める形で大規模に整地した状況を確認した。帰属時期は①は無量光院跡以前、②は無量光院跡造営時（12世紀後半）と推定される。

なお、整地層の上面は現在の地形に近い北から南側に堆積する状況を呈していた。このことは調査区北側に位置する北側土壠に伴うものなのか、後世の改変によるものか検討を要する。また、西側土壠にも近接した位置であるため土壠と整地が一連で行われたかなど、今後検証していく必要があると思われる。

〈南区〉 柱穴1個を確認した。全体的に搅乱が著しく残存状況は不良である。

## 報告書抄録

ふりがな	とくべつしきむりょうこういんあとだいさんじゅうに・よんじゅうにじはつくちょうさほうこくしょ							
書名	特別史跡無量光院跡第32・42次発掘調査報告書							
副書名	一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査							
巻次								
シリーズ名	岩手県平泉町文化財調査報告書							
シリーズ番号	第143集							
編著者名	島原弘征 鈴木江利子							
編集機関	平泉町教育委員会							
所在地	〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2 電話 (0191)46-2111㈹							
発行年月日	西暦2023年3月29日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひりょうこういんあと 無量光院跡	いわてけんひいわいぐん 岩手県西磐井郡 ひらいづみあいはなで 平泉町	03402	NE76-1007	38° 59' 33"	141° 07' 02"	20141109~1212 20190208~0326	27m <sup>2</sup> 20m <sup>2</sup>	一般県道平泉 停車場中尊寺 線電線共同溝 整備事業に伴 う発掘調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
無量光院	寺院	12世紀	整地層 溝 柱穴	かわらけ 中国産磁器 国産陶器 羽口 土壙 鉄滓 植物遺体 漆椀 石製品 粘土塊				
要約	県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝工事に先立ち、地上機及び引き込み線部分の事前調査（32次・42次）を収録している。調査の結果、平成27年度の32次調査では現在の県道脇から近代の道路側溝を、平成30年度の42次調査において無量光院造営時の整地層と無量光院跡以前の溝を確認した。							

岩手県平泉町文化財調査報告書第143集

## 特別史跡無量光院跡第32・42次発掘調査報告書

一般県道平泉停車場中尊寺線電線共同溝整備事業関連遺跡発掘調査

印 刷 令和5年3月27日

発 行 令和5年3月29日

編集・発行 平泉町教育委員会

〒029-4102 岩手県西磐井郡平泉町平泉字志羅山45番地2

電話 (0191) 46-2111 (代) FAX (0191) 46-2015

印 刷 川嶋印刷株式会社

〒029-4194 岩手県西磐井郡平泉町平泉字佐野原21

電話 (0191) 46-4161

© 平泉町教育委員会2023